

第1号議案

平成22年度(22.11.1~23.3.31)事業報告

地盤工学会は、平成22年11月1日に公益社団法人地盤工学会として登記した。地盤工学会は、定款第4条(目的)「地盤工学の進歩及び地盤工学に関わる技術者の資質向上を図り、学術・科学技術および文化の振興と社会の発展に寄与することを目的とする」に合致した公益事業を、不特定多数に対する公益性を意識して展開した。公益目的事業としては、公1：公益出版事業、公2：調査・研究事業、公3：技術推進事業、公4：表彰関連事業の4つに区分されており、会計体系もこれに対応する。公益法人に整合した本学会の健全なガバナンスの強化を推進した。その一貫として、各部の事業活動・委員会活動の内容や委員会構成などをすべてホームページ上に示すなど、透明性を強化した。また、公益法人の事業区分ごとに事務局体制を再編し、グループ制に移行することを検討した。地盤工学における学術分野の総体としての研究企画部門の強化としては、地盤工学発展史・人物史・アカデミックロードマップの推進体制を具体化した。

また、支部活動を安定的に支援し、予算の透明性と公平性を確保するため、「本部支部活動強化委員会」からの提案に基づき、支部交付金のルールを審議・立案した。その結果、学会規則・規程の改定を理事会に提案して、承認を受け、平成23年度の予算から適用をされる。加えて、学会全体のICTシステムを再構築することを目指した「会員データベース管理システム改善WG」では、学会内の関連する部門と連携を取りながら、システムの全体像を構想し、必要な概算費用を把握できる段階まで作業を進めることができた。併せて、会員数の減少食止めの活動を積極的に展開した。支部においては、若手の会員の獲得のために若手委員会等の活動展開の検討を開始し、若手の目線から支部の活性化の方策を具体化するとともに、支部の活性化と会員の拡充を図った。公益法人化及び会員減少時代における今後の学会支部活動のあり方についても検討した。

公益社団法人としての初年度にあたる今年度は、新会計体系に基づく会計処理への変更に伴い、遅延等の混乱を招くことを懸念していたが、顧問公認会計士の適切なお指導と学会事務局の努力によって、大きなトラブルもなく、円滑に経理処理を進めることが出来た。また、公益法人に要求されている、公益事業毎の収支相償および公益事業費50%以上の確保の要件については問題なくクリアすることが出来た。なお、今年度は事業期間が5ヶ月の変則的な年度になっているため、遊休財産に関する要件については、次年度以降で検討することになる。財務状況に関する書類作成に関しては、従前の事業収支から正味財産増減に変更されたため、正味財産内訳表や財産目録の内容を詳細に作成出来るようにした。

政権交代による公共事業費削減の加速、景気低迷から脱却できない等の社会情勢により、期首当初は

会費収入の大幅な減が懸念されたが、会員数の減少食止めの努力もあり、会費収入減を最小限度にすることができた。このような社会情勢にあっても、持続性のある学会として存在していくためには、会員の総力を結集して、学会の諸活動についても健全な財務基盤を構築・維持していく努力が次年度以降、より一層必要である。

今年度において実施された事業について、公益目的事業の事業区分毎に以下に示す。

1．公益出版事業〔公1〕

会誌部：「地盤工学会誌」は年間12回発行のうち残り5回の刊行を行った。「地盤工学ジャーナル」は、年間4回のうち残り2回の刊行を行った。「SOILS AND FOUNDATIONS」では、電子査読システムを導入し本格運用を軌道に乗せるよう努めた。また、創刊50周年記念号を発刊した。

事業部：地盤工学に係る技術普及を目的として、「セット de お得」販売などの販売促進に努めた結果、好評を得た。また、出版事業において、原稿の2次利用に係る著作権の学会委譲と転載許諾について、運用上の課題を整理検討して円満で効率的な出版作業となるよう見直しを図った。

北海道支部：北海道の火山灰質土の性質と利用に関する研究委員会の成果である「実務家のための火山灰質土」を発刊した。

北陸支部：昨年度作成した防災パンフ「北陸地方の地震と防災」の有効利用について支部活性化委員会で検討した。地域性を生かした新たな出版物の作成についても検討をした。

関東支部：研究委員会活動の成果として「関東の地盤」を出版した。

中国支部：支部独自の論文報告集「地盤と建設」を発行した。

九州支部：九州地盤情報システム協議会において、「九州地盤情報データベースの第2版」の発刊に向けて取り組んだ。

2．調査・研究事業〔公2〕

総務部：平成22年度11月以降では、2011年2月ニュージーランドクライストチャーチ地震災害緊急調査団を派遣し、調査結果を広く公表した。また、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に関しては、調査団を派遣するなど、種々の調査・研究事業を展開中である。

調査・研究部：新規3件、継続4件の計7件の研究委員会による調査・研究活動のほか、2件の受託研究委員会による活動を実施した。地盤工学シンポジウムでは、「テーマ：土構造物・複合構造物」の諸問題に対して45編の論文発表および討議を行った。また、次年度の第46回地盤工学研究発表会（神戸大会）に関する各種の事業企画を行うほか、市民を対象とする広報・啓蒙事業を研究発表会の関連事業に位置付けた。研究発表会では論文募集により1,117編の論文を受理した。情報関係では新電子図書室を活用した情報の効率的な管理と会員への還元や市民への提供について検討した。

基準部：規格・基準にかかる活動としては、地盤調査基準について、関係 JIS6 件の改正案を作成した。また、関係学会基準の改正素案を作成した。室内試験関係においては、1 件の新規学会基準案を作成し会員への公示を行った。地盤設計・施工関連においては、「グラウンドアンカー設計・施工基準，同解説（第二回改訂版）」の改訂に向けて解説を執筆した。会員からの規格・基準および解説に関する意見等に対応した。ISO 関連では、ISO/TC190 の会議、日本発国際標準の制定のための調査に延べ 3 名の代表・委員を派遣し、我が国の意見が国際規格案の審議に反映されるように努めた。我が国が P メンバーとなっており、地盤工学会が国内審議団体である ISO/TC182、ISO/TC190、ISO/TC221 では、規格案に対する各レベルでの投票を通じて、規格案の作成に大きく貢献した。ISO 関連の活動内容については、学会誌上で報告を行い、関係省庁および学協会に支援の要請を行った。

北海道支部：若手技術者の育成のため、重金属をテーマとしたセミナー「重金属問題を考える」を 1 月に札幌で開催した。また、例年実施している第 51 回年次技術報告会を 2 月に苫小牧市で開催した。

東北支部：講演会、地盤工学講座、地盤工学フォーラムを通じて、幅広い技術者の技術研鑽と情報交流を促進し、支部活動の活性化に努めた。地盤工学フォーラムでは建設工事に伴う地盤環境対策をテーマとして講演会を実施し、あわせて支部賞応募者による表彰候補業績のプレゼンテーションを実施した。また、「みちのく GIDAS」の公開に対し主体的な役割を果たし、その利活用について東北地域地盤災害研究委員会において検討を進め、平成 22 年 12 月設立総会を開催した。

北陸支部：支部創設 50 周年記念事業および本部創立 60 周年対象行事の成果物である、冊子「北陸地方の地震と防災」を用いて、(社)北陸建設弘済会主催の「社会資本整備セミナー」を共催で実施した。新潟・富山・石川・長野の会場で開催し、合計 343 名の参加があった。会員のみならず一般市民にも学会の活動を広くアピールすることができた。また、IS-Kanazawa2012 の開催に向けた準備を行った。若手会員獲得のために若手委員会の活動を開始し、若手と熟練技術者の交流を深め、若手の目線から支部の活性化の方策を具体化した。

関東支部：第 7 回関東支部発表会 (Geo-kanto 2010) を 11 月にさいたま市で開催した。研究委員会活動においては、「地盤改良材を中心とした廃石膏ボードの再資源化に関する研究委員会」を新規に設立した。また、「関東地域における地盤情報データベースの運用と活用検討委員会」では、書籍「関東の地盤」の刊行に引き続き、講習会、勉強会を会員サービスグループや県グループとの連携により開催する活動を展開した。加えて、ニューズレターの発行を継続し、支部活動情報の発信を図った。また公益法人化を機に、関東支部のホームページをリニューアルした。会員数減少への対処の一環として平成 21 年度より始めた若手交流会を、今期は関東支部発表会の若手交流セッションとして開催し、多数の参加を得た。次世代を担う若手を対象としたソイルタワーコンテストは 5 回目を迎え、ソイルストラクチャ

ーコンテストと改称し、企画を新たに開催された。また、高校からの依頼による出前講座を1件実施し、地盤と社会との関わりを知ってもらう機会となった。

平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の発生を受け、国土交通省関東地方整備局より「災害調査協定」に基づく調査協力依頼があり現地調査を実施したほか、本部との連携のもとに災害対応を遂行中である。

中部支部：研究報告会及び講演会等を名古屋及び信州地域で行い、技術力の向上、学会員へのサービスに努めた。一般市民向けの講座「なごや環境大学」及び小学生を対象の理科特別授業を、地盤工学の興味・理解を深めるために行った。土木技術者を対象にしたイブニングセミナーを行い、人材の育成に努めた。

関西支部：講演会、シンポジウム、見学会、若手交流会等の各種行事を開催するとともに、小・中・高校生を対象とした出前講義を実施した。また、引き続き、和歌山・滋賀・福井の3地域の地盤研究会および、兵庫県南部地震を後世に伝承するための研究委員会、地下建設工事に於いてトラブルが発生しやすい地盤の特性とその対応に関する研究委員会を通じて活発な調査研究活動を実施した。次年度の第46回地盤工学研究発表会を神戸市で開催するため実行委員会と連携し「市民と共に考える、新しい地盤工学の展望と防災」をテーマに沿って準備を進めた。

中国支部：土木学会中国支部と連携し、平成21年防府地区の土石流災害に関する「工事報告会」を開催し、会員サービスのより一層の向上を目指した。また、平成21年7月山口県防府市で発生した土砂災害に関する調査研究委員会活動や中国地方地盤情報データベース委員会活動を実施した。

四国支部：中央構造線活断層系露頭の見学会や建物防災に関する学術講演会を開催し、防災研究の推進と防災意識の啓発をはかった。各県地盤工学研究会では各県単位での学術講演会、技術交流会、および台湾の八八水害と集集地震被害の現地見学会と報告会を開催した。また、東南海・南海地震の発生を控えていることもあり、常設の支部委員会で地盤の動的性質に関して精力的な研究活動を進めている。

九州支部：「地盤情報データベースの防災および地盤環境への活用」をテーマにした研究委員会の活動を実施。

3．技術推進事業〔公3〕

総務部：広報・IT関係の活動として、公益社団法人地盤工学および地盤技術者の役割を広く社会に認知・理解してもらう活動として学会のデジタルパンフレットを新規に作成し、ホームページへの掲載と関係者へのUSBによる配布を行った。また、市民向けの情報発信等の継続検討と、メディア懇談会の開催によるマスコミ対応を積極的に進めると共に、英文ホームページの充実のため具体的な改定作業を開始した。さらに、地盤工学およびその周辺領域における研究・技術情報や継続教育コンテンツを迅速にわか

りやく提供するために、利用状況の分析に基づき、ホームページの更新やメールマガジン等の充実を行い、各種学会活動が IT を活用して効率的に実行されるよう、他部関連組織へ技術的支援を行った。

企画部：公益法人化後の中長期ビジョンに基づいて各部と協力してアクションプランを作成した。資格・認定制度に関する検討結果については、理事会に中間報告を行なった。さらに、地盤工学の発展史・人物史およびアカデミックロードマップの3部作についてその作成計画を検討した。また、男女共同参画・ダイバーシティについては、会員・支部部に新設された「男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会」の活動に協力した。

会員・支部部：会員数に関する各種分析及び学生会員アンケート調査を行い、会員数の減少を食止め・増加を図るための施策に反映させ始めた。まず、ダイバーシティを促進するための会費減免策を立案して、理事会の審議に附すことができた。「支部情報の収集配信 WG 」を新たに立ち上げ、「本部支部活動活性化委員会」と連携して、支部・本部間だけでなく、支部・支部間での情報共有を進展させ始めた。併せて、「継続教育」では、「建設系 CPD 協議会」の会長学会として広く公益の視点に立った活動を進めると共に、学会内の G-CPD システムで取り扱う範囲を拡大して、会員の学会活動を側面から支援できる仕組みを構築した。加えて、地盤工学会と関係深い中小規模の学協会と、CPD に関する連携を着実に展開した。

国際部：国際地盤工学会との連携および各種国際交流活動の推進を継続しながら、特に、新チーム（2009-2013）の国際地盤工学会の TC、ATC の活動に対する協力体制について重点的に検討した。また、平成 23 年度以降に予定されている国際会議等の開催準備支援を行った。

事業部：講習会事業において、新しく土木学会との共催での講習会や講演会形式で会員以外にも参加を呼びかけるなど、公益法人としてより広範に技術普及を図った結果、多くの参加者を募ることができた。

北海道支部：北海道の火山灰質土の性質と利用に関する研究委員会による「実務家のための火山灰質土」講習会を 12 月と 1 月に、札幌と北見でそれぞれ実施した。地域性や会員のニーズにあった事業テーマを積極的に実施・取り入れ、支部活動の活性化に努めた。

東北支部：講習会（地盤の地震応答解析入門）の開催を通じて、幅広い技術者の技術研鑽と情報交流を促進し、支部活動の活性化に努めた。

北陸支部：例年実施している地盤調査講習会を、行政や企業の新人研修で利用してもらえるように広報の手法などを検討し、より充実したものとした。

関西支部：「地盤の環境・計測技術に関するシンポジウム 2010」時に技術展示など行い、技術の推進を図った。

中国支部：例年どおり、各地域で講習会を開催し、支部会員へのサービス向上・支部活性化に努めた。

また、「海外技術情報講習会」においては、海外インターンシップ体験談を含めた海外業務の事例紹介を行った。

四国支部：地盤液状化を考慮した構造物の耐震点検の講習会を 108 名の参加を得て開催し、継続教育を推進した。

九州支部：擁壁・山留めの設計演習講習会「山留め工法の種類と設計法について」を 11 月に、国際講演会ジオテクミーティング「From wave propagation to element and physical model tests in soil laboratory」を 12 月に開催した。

4．表彰関連事業〔公4〕

総務部：一般を対象とした地盤工学貢献賞の第一回目の公募を行い、9 名および 2 団体を表彰した。さらに、地盤工学会論文賞については、和文部門と英文部門に分けて表彰を行った。

北陸支部：支部表彰委員会において、表彰項目を増やし、会員以外への表彰も検討するなどして、一層の活性化をめざした。

関西支部：支部会員の地盤工学に関する学術・技術の向上・普及に資する優れた活動や社会に貢献を行った活動に対し、3つの賞を設け表彰し、その成果を讃えるとともに、関西支部活動の活性化をはかることを目的に実施した。今季は、2件の受賞者があった。

九州支部：支部技術賞として「超軟弱粘土の処分場を北九州空港用地へと変える地盤解析手法」を、支部学生賞として 14 名の表彰を行った。

・事業の状況

1. 公益出版事業〔公1〕

(1) 学会誌「地盤工学会誌」の発行

刊行物名	刊行期日・回数	発行部数	ページ数	サイズ	摘要
学会誌「地盤工学会誌」	毎月1回 年12回うち5回	55,600	512 本文 350 会告 162	A4	特集：液状化による被害と対策【11月号】 / 第45回地盤工学会研究発表会【12月号】 / 災害から市民を守る【1月号】 / 北陸支部特集号【2月号】 / 最先端の地盤の数値解析【3月号】

(2) 公益出版（論文集・刊行物）

1) 「SOILS AND FOUNDATIONS」ならびに「地盤工学ジャーナル」

刊行物名	刊行期日・回数	発行部数	ページ数	サイズ	摘要
「SOILS AND FOUNDATIONS」	4,6,8,10,12,2月 年6回うち2回	3,050	420	A4	登載論文数：33編
「地盤工学ジャーナル」 (登載先:J-STAGE)	6,9,12,3月 年4回うち2回	-	228	-	登載論文数：18編

2) 学術図書等（新刊）

担当部	刊行物名	刊行期日	発行部数	ページ数	サイズ	摘要
【事業部】	実務シリーズ28 近接施工	23.1.17	1,000	205	A4	新刊
	地盤工学・基礎理論シリーズ 2.地盤の動的解析 - 基礎理論から応用まで -	23.1.31	500	152	A4	増刷
	実務シリーズ18 液状化対策工法	23.2.15	500	513	A5	増刷
	実務シリーズ25 続・土壌・地下水汚染の調査・予測・対策	23.2.15	400	150	A4	増刷
【調査・研究部】	第55回地盤工学シンポジウム 平成22年度論文集	22.11.25	150	310	A4	新刊
【北海道支部】	実務家のための火山灰質土	22.12	385	153	A4	新刊
	技術報告集第51号	23.1	90	261	A4	新刊
【関東支部】	関東の地盤	22.11.19	300	140	A4	新刊
【中国支部】	「地盤と建設」Vol.28, 1, 2010	23.1.31	500	194	A4	新刊
計 9 点						

2. 調査研究・基準事業【公2】

(1) 研究発表会、シンポジウム、講演会等

担当部	開催期日	名 称	講演題数	参加者数	開催場所
【調査・研究部】	22.11.25	第55回地盤工学シンポジウム	53	117	JGS会館
【北海道支部】	23.1.27	セミナー「重金属問題を考える」	2	27	大成建設
	23.2.4-5	第51回北海道支部技術報告会	38	155	苫小牧市道新ホール
	23.3.28	自然災害研究 地区災害フォーラム「激化する自然災害に北海道はどう立ち向かうべきか」	6	150	北海道大学学術交流会館
【東北支部】	22.11.13	「地盤工学講座」 第1回「地盤の液状化解析」 - YUSAYUSAを使ってみよう -	-	32	東北学院大学
	22.11.27	講演会「近年における山地災害の現状と特徴」	1	73	岩手大学工学部
	22.12.11	「地盤工学講座」 第2回「グループディスカッション」	-	22	東北学院大学
【北陸支部】	23.1.13	地盤工学フォーラム東北2010	8	127	ハーネル仙台
	22.12.9	第8回ジオテクフォーラム	1	107	北陸地整会議室
	22.12.2	NIT地盤情報活用研究委員会講演会	3	113	クロスパル新潟
	22.11.11	臨時総会特別講演会	1	84	技術士センタービル
	23.1.13	第16回地盤工学に関わる実務者報告会	1	88	技術士センタービル
	23.2.25	第63回土質工学最新情報コロキウム	3	80	パレブラン富山
	23.3.3	特別講演会「地元に根づく地盤工学」	5	120	ホテル金沢
【関東支部】	22.11.4-5	第7回関東支部発表会	131	194	大宮ソニックビル
	22.11.4	第2回若手交流会	1	64	大宮ソニックビル
	22.11.12	神奈川県地盤工学セミナー	3	50	関東学院大学関内メディアセンター
	23.1.27	書籍「関東の地盤」の地盤情報データベースに関する勉強会	1	20	宇都宮市市民活動センター
	23.2.4	廃石膏ボードの再資源化と地盤改良への適用に関する講演会	2	76	群馬大学工学部
	23.2.21	特別講演会「羽田空港国際化事業における新技術とその大規模適用」	1	45	JGS会館
【中部支部】	22.11.20	第2回地盤工学研究室交流会（第8部会）	8	79	名古屋工業大学
	22.11.26	第6回中部支部イブニングセミナー（技術編）「実務で用いる室内土質試験の現状と試験結果の活用法」（第1部会）	2	51	名城大学 名駅サテライト
	22.12.16	中部総合地震防災システム研究委員会（第3部会）研究成果報告会	9	42	TKP名古屋ビジネスセンター会議室
	22.12.17	第7回中部支部イブニングセミナー（特別編）「これからの時代における地盤工学の役割」（第1部会）	1	27	名城大学 名駅サテライト
	23.2.4	信州地盤環境委員会（第7部会）平成22年度第2回講演会 「“明治のシルクロード 二線路・和田峠”の改修と工事に関わった技術者デ・レイケ、古川阪次郎ら」	1	206	ホテル祥園 （上田市）
【関西支部】	22.11.11	滋賀地域地盤研究会 第1回定例勉強会			滋賀県 立命館大学
	22.11.12	地盤の環境・計測技術に関するシンポジウム2010		89	建設交流館
	22.11.24	福井地域地盤研究会 第1回福井地域地盤研究会			福井県職員会館
	22.12.17	滋賀地域地盤研究会 第2回定例勉強会			滋賀県 立命館大学
	22.12.3	特別講演会（地下建設工事においてトラブルが発生しやすい地盤の特性とその対応技術に関する研究委員会）	2	100	建設交流館 グリーンホール
	23.1.26	平成22年度施工技術報告会「最近の建設技術と施工事例」	5	123	建設交流館 グリーンホール
	23.2.16	第10回若手交流会	1	23	ドーンセンター 中会議室2

担当部	開催期日	名 称	講演題数	参加者数	開催場所
【関西支部】	23.3.15	福井地域地盤研究会 第2回福井地域地盤研究会			福井県職員会館
【中国支部】	22.11.11	平成22年度工事報告会「平成21年防府地域の土石流災害と砂防および治山事業」	4	43	山口グランドホテル
【四国支部】	23.1.28	第一回技術交流会	2	41	香川高等専門学校
	23.1.28	台湾八八水害・集集地震災害現地調査報告会	4	42	愛媛大学交友会館
	23.2.28	平成22年度学術講演会「建物防災の最前線」	1	20	高知工科大学
	23.3.2	第二回技術交流会	5	22	香川高等専門学校
	23.3.28	徳島県地盤工学研究会第2回特別講演会	3	9	徳島大学工学部
【九州支部】	22.11.5- 23.3.18	鹿児島地区活動 「土の勉強会」 第71回～73回(3回)	3	50	鹿児島大学
	22.11.11	佐賀地区活動 地盤工学セミナー 「地下水・土中水が絡む地盤工学上の諸問題」	3	104	アバンセホール
	22.11.12	沖縄地区活動 第23回沖縄地盤工学研究発表会	11	57	沖縄ハーバービューホテル
	22.12.10- 23.2.4	長崎地区活動 勉強会「ジオラボ」 第81回～82回(2回)	4	39	長崎大学
	22.12.17	熊本地区活動 地盤の勉強会	2	27	熊本大学
	23.2.18	特別講演会「Local National, International そしてGlobal:思い出すまに」	1	24	(株)建設技術研究所九州支社
計 45 件			333	2,962	

(2) 見学会等(会員および一般市民向け活動)

担当部	開催期日	名 称	講演題数	参加者数	開催場所
【北陸支部】	22.11.29	日本海沿岸東北自動車道 村上瀬波温泉IC施工 現場見学会		38	村上瀬波温泉
	22.12.1	派遣依頼:金沢市土木職員に対する講演会	1	50	金沢市
【関東支部】	22.11.26	出前講座「福井県立藤島高校」	1		福井県立藤島高校
	22.11.29	第10回彩の国市民科学オープンフォーラム	3	150	大宮ソニックシティ・国際会議室
	22.12.1	第6回つくば研究所めぐり	-	14	森林総合研究所
	22.12.11	第5回 学校対抗ソイルストラクチャーコンテスト	-	5校	日本大学理工学部船橋キャンパス
	23.2.23	東毛広域幹線道路跨線橋・橋梁下部等工事現場見学会	-	24	群馬県
【中部支部】	22.11.11	第2回なごや環境大学 共育講座「濃尾平野の軟弱地盤」	1	20	名城大学 名駅サテライト
	22.12.9	第3回なごや環境大学 共育講座「地下水と地盤沈下」	1	15	名城大学 名駅サテライト
	22.12.3	理科特別授業(中部土質試験協同組合との共催行事)	-	100	尾張旭市立旭丘小学校
	23.1.13	第4回なごや環境大学 共育講座「地震災害と水害」	1	13	名城大学 名駅サテライト
	23.2.17	第5回なごや環境大学 共育講座「地盤情報システムとその利用」	1	14	名城大学 名駅サテライト
【関西支部】	22.11.12	工業高等専門学校・工業高等学校生対象見学会 見学先:阪神三宮駅築造工事		41	神戸市
	22.11.13	ふるさと地盤診断ウォーク 大阪市内湾岸コース(防潮堤、水門、津波高潮ステーション)		28	大阪市
	22.11.15	「出前授業」大地のつくり(理科の単元学習)		37	奈良市立椿井小学校
	22.11.18	「出前授業」流れる水のはたらき		82	大阪市立南百済小学校
	22.11.20	市民特別講演会「平城遷都1300年古都奈良の文化遺産防災と地震災害を考える～奈良盆地東縁断層帯から地震が襲ったら～」	2	245	奈良市

担当部	開催期日	名 称	講演題数	参加者数	開催場所
【関西支部】	22.11.26	工業高等専門学校・工業高等学校生対象見学会 見学先：阪神高速道路正蓮寺川西工区		82	大阪市
	22.11.26	「出前授業」大地のつくり(理科の単元学習)		35	大阪市立九条東小学校
	22.12.3	「出前授業」大地のつくり(理科の単元学習)		132	西宮市立用海小学校
	22.12.3	和歌山地域地盤研究会 熊野川堤防開削工事現場見学会			新宮市
	22.12.6	工業高等専門学校・工業高等学校生対象見学会 見学先：阪神三宮駅築造工事		14	神戸市
	22.12.7	平成22年度見学会「大阪不動高速大和川線トンネル工事現場見学会」		21	大阪府
	23.1.15	「出前授業」上町断層の知識(ウォーキングの参考のため)		200	大阪市
	23.1.30	「出前授業」平城ニュータウンの地盤		50	神功自治連合会
	23.3.14	「出前授業」土木構造物と生活・環境		25	常翔啓光学園中学校
【四国支部】	23.11.25-29	台湾八八水害・集集地震災害現地調査	-	8	台湾
	22.12.3	国道32号線猪ノ鼻道路切土のり面における中央構造線活断層系路頭見学会	-	25	徳島県三好市
【九州支部】	23.3.18	鹿児島地区活動 現場見学会	-	12	小丸川発電所
計 29 件			11	1,475	

(3) 各種研究委員会、災害調査委員会

1) 研究・調査委員会等

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【総務部】	<p>2010年7月豪雨による広島県庄原市土砂災害調査団 土田 孝団長ほか17名 2010年7月16日に広島県庄原市北部の川北町、西城町を結ぶ県道445号線を中心とする地域に集中豪雨が発生し、洪水と斜面崩壊、土石流などの土砂災害によって死者1名、全壊家屋12棟、半壊家屋11棟という大きな被害を受けた。本災害の特徴は、山間部の約4km四方の狭い範囲を限定した突然の集中豪雨であること、これによって洪水と37箇所もの土石流がほぼ同時に発生し、地域の地形全体が激変するような大きな被害がもたらされたことである。今回の災害は、山間地におけるゲリラ豪雨災害ともいえ、今後どのように対処すればよいか大きな課題になると考えられ、砂防学会、地盤工学会、土木学会、日本地すべり学会は、本災害に関する合同調査団を結成し、広島県の協力を得て被災地での現地調査を実施した。なお、災害調査報告会を9月30日に4学会合同で報告会を開催した。</p>	終了
	<p>2010年南九州豪雨災害調査団 北村良介団長ほか3名 平成22年7月に鹿児島県の大隅半島から宮崎県都城市の地域で豪雨による土砂災害が発生した。これらの土砂災害発生場所の地形・地質・土質特性を調査し、土砂災害の発生メカニズムの解明と今後の防災・減災対策に貢献できる資料の提供を目指すために、災害調査団を結成した。なお、災害調査の報告は、学会ホームページおよび地盤工学会誌平成23年2月号に掲載した。</p>	終了
	<p>2010年ニュージーランドDarfield地震災害緊急調査団 岡村未対団長ほか5名 2010年9月4日、ニュージーランド南島中部でマグニチュード7.1の地震が発生し、この地震によりクライストチャーチ及びその周辺部で激しい地盤の液化化とそれによる構造物被害が発生した。地盤工学会では9月11日～16日の間、緊急調査団を派遣し調査にあたり、9月29日にJGS会館で緊急報告会を開催した。その調査結果の概要を学会ホームページおよび地盤工学会誌平成22年12月号に掲載した。</p>	終了
	<p>2011年ニュージーランドChristchurch地震災害緊急調査団 安田 進団長ほか7名 2011年2月22日、ニュージーランド南部で現地時間午後0時51分（日本時間22日午前8時51分）頃、マグニチュード（M）6.3の地震があり、第2の都市クライストチャーチ周辺で大きな被害が発生した。クライストチャーチの中心部では建物、道路の損壊、液化化による被害が多くみられるため、地盤工学会では液化化による被害の状況と地盤条件との関係を主に調査し、2010年9月に発生したニュージーランドDarfield地震の際にも、地盤工学会として緊急災害調査を実施したので、前回の地震での災害調査で得られた結果と今回の地震との関係も比較検討した。土木学会との共催で緊急報告会を3月11日に開催したが、東北地方太平洋沖地震発生のため、途中中止となり二次派遣も予定していたが派遣を中止した。</p>	新設
	<p>2011年東北地方太平洋沖地震災害調査団 村上 章団長ほか137名 2011年3月11日、三陸沖を震源にM9.0という国内観測史上最大規模の東北地方太平洋沖地震が発生し、広範囲で甚大な被害を受けた。地盤工学会では今回の地震・津波災害に対して、3月11日に災害対策本部（本部長：日下部治会長）を立上げ、地盤工学会全国各支部と東北支部との連携により第一次調査団を構成して、調査にあたった。災害調査報告会を4月11日にJGS会館および各地区のサテライト会場（同時放映のストリーム配信）で開催を予定する。なお、災害直後には 会員の安否確認、被災地支援（義捐金を含む寄附、調査・復旧の技術支援、教育機関への支援、会費免除等）を行いつつ、災害情報、生活・支援情報、その他関連情報のHPを立ち上げた。</p>	新設
【調査・研究部】	<p>斜面・のり面の維持管理と防災マネジメントに関する研究委員会 杉山友康委員長ほか20名、全体委員会：1回、分科会：2回、現場見学会：0回 今年度の後期は、斜面・のり面の維持管理および防災マネジメント技術の現状を把握するための議論を行うとともに、災害を低減するための維持管理方法および防災マネジメントに関して提言を行うことを目的とした委員会報告書を取りまとめた。委員会報告書には1)維持管理の現状、2)今後の維持管理と防災マネジメントの方向性、3)斜面・のり面の維持管理と防災マネジメントの要素技術と課題、について記した。なお、3月に実施を予定していた全体委員会は東日本大震災のため中止した。</p>	
	<p>地盤環境プロジェクトにおける環境影響評価技術の高度化と適用に関する研究委員会 勝見 武委員長ほか36名、全体委員会：1回、WG2回 試験法・調査法WG、および地盤環境のあり方・グランドデザインWGの二つのWGで溶出試験や難透水性材料の透水試験法の詳細調査、土壌・地下水汚染を対象とした環境リスクと対策のあり方についての検討を実施した。さらにその検討結果に基づいて、地盤工学会誌平成23年8月号で予定されている本委員会が担当する小特集の執筆、編集作業を進めた。</p>	
	<p>情報通信技術（ICT技術）の適用による地盤工学の高度化に関する研究委員会 大谷 順委員長ほか17名、全体委員会：2回、WG0回 地盤工学分野におけるICTの応用の現状について調査を行い、現状の課題と今後の展望について整理した。委員会成果の会員への還元を図り、会員から委員会の方向性について要望を聞きことを目的に研究コロキウム（第4回：2010.11.9、第1、2回は2009年度、2010.6に実施）を開催した。</p>	
<p>地盤材料試験結果の精度の分析と表記方法についての研究委員会 澤 孝平委員長ほか35名、全体委員会：1回、不確かさWG：0回、技能試験WG：1回 第4回全体委員会では、委員2名からの話題提供と、2010年DS-9及び各WGの活動内容について報告・討議がなされた。現在、不確かさWG・技能試験WGと各WG内のそれぞれ三つのサブWGにおいて研究活動中である。1)不確かさWG：選定した土質試験について不確かさ要因の影響を分析するための実証試験を計画立案中である。2)技能試験WG：技能試験結果の統計的評価方法の勉強会を開催するとともに、第2回技能試験を実施中である。</p>		

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【調査・研究部】	<p>地球温暖化が地盤環境に及ぼす影響と対策に関する研究委員会 陶野郁雄委員長ほか11名、全体委員会：1回、幹事会等：1回 第2回全体委員会では1名の委員の話題提供を基に、気候変動に起因する複合自然災害に対する適応策について質疑・討議を行い、第3回全体委員会は、地球温暖化が地盤環境に及ぼす影響を考える上で境界領域での検討の重要性に着目して、当研究委員会、日本第四紀学会“地球温暖化問題”を検討する研究委員会および環境省環境研究プロジェクトS-8の地球温暖化問題に関わる研究3機関の5人の講師による技術交流会形式で一般会員にも公開して3/18に開催を予定して準備を進めたが、東日本大震災(3/11)を考慮して中止した。幹事会では主に第46回地盤工学研究発表会(神戸、H23.7.5-7)ディスカッションセッションおよび第9回環境地盤工学シンポジウム(京都、H23.10.6-7)の企画および運営方法等について審議した。なお、3/29に予定していた幹事会についても東日本大震災(3/11)を考慮して会合は中止してメール審議に切り替えた。</p>	
	<p>大ひずみ領域を考慮した土の繰返しせん断特性に関する研究委員会 吉田 望委員長ほか15名、全体委員会：1回 第3回全体委員会では、3名の委員の話題提供を基に、大ひずみ領域における室内試験や数値解析における現状の課題と今後の展望について整理した。また、鉛直アレー記録を対象とした複数の解析手法を用いた解析結果が報告され、数値解析の適用性について議論した。</p>	
	<p>老朽化した埋設カルバートの復旧に関する研究委員会 東田 淳委員長ほか16名、全体委員会：2回 WG1(実験・計測)では、既往の実験結果から既設管が内巻きライナーに与える影響、製管工法による更生管の構造系、管軸方向の地震時被害について議論した。WG2(解析・設計)では、FEM解析によって現行の自立管設計法は実際よりも安全側であるとの検討結果が示された。WG3(改築・更生)では、更生工法の適用範囲について議論した。</p>	
【北海道支部】	<p>北海道の火山灰質土の性質と利用に関する研究委員会 三浦清一委員長ほか13名、1回 「実務家のための火山灰質土」出版のための執筆を11月に完了し、12月14日に発刊した。また、12月15日(札幌)と1月14日(北見)で書籍を用いた講習会を開催した。講師は委員が行い、札幌講習会は170名、北見講習会では104名の参加者を得ている。書籍の初版(350冊)は、3月初旬に完売した。以降の書籍注文には、オンデマンド印刷による製本発注で対応するものとした。</p>	
【東北支部】	<p>東北地域地盤災害研究委員会 吉田 望委員長ほか25名、4回 東北地域で発生する地盤災害を対象とした災害事象の事前対策・リアルタイム対応・事後対応の各フェーズにおける諸特性に関する研究を目的とし、2つの小委員会(X年宮城県沖地震小委員会、地盤データベース利活用小委員会)を置き活動している。(社)東北建設協会との共同研究による東北地盤情報システムが完成した。このシステムは基本となるデータベースに対してユーザが独自にデータを追加できる点が特徴であり、平成20年岩手・宮城内陸地震の被害データを本システムに登録し、データの充実を行った。昨年度に引き続き、自治体などへの利用の働きかけを行っている。</p>	継続
【関東支部】	<p>関東地域における地盤情報データベースの運用と活用検討委員会 龍岡文夫委員長ほか22名、オブザーバ3名 ・ 書籍「関東の地盤」を出版(11月19日)。 ・ 書籍の出版に併せて講習会を開催(12月17日)。 ・ 栃木県Gで書籍「関東の地盤」に関する勉強会を開催(1月27日)。</p>	
	<p>地盤工学におけるリスクマネジメントに関する研究委員会 日下部 治委員長ほか16名、オブザーバ5名 ・ Geo-Kanto2010にて研究委員会活動報告セッションに参加 ・ 11月22日、1月11日に委員会を開催 ・ 地盤工学会誌の講座3次原稿案を作成中</p>	
	<p>防災・減災のための地盤構造物の設計・施工法に関する研究委員会 宮田喜壽委員長ほか12名 ・ 関東支部研究発表会の研究委員会セッション(11月4日)において、当該委員会の活動を報告。 ・ 12月20日に委員会開催、着目する地盤構造物(ため池、河川堤防、建築基礎、宅地、農業用パイプライン、高圧ガス・石油タンク施設、電力施設、擁壁、道路盛土、道路切土、道路基礎、鉄道、港湾・海岸・空港施設)の設計法に関する1次調査をほぼ終了させる。 ・ 1月28日に幹事会を開催。委員会成果の公開方法について意見交換。</p>	
	<p>関東地域の火山由来地盤の災害事例研究と地域特性に関する研究委員会 若井明彦委員長ほか17名 ・ 関東支部研究発表会の研究委員会セッションにおいて、当委員会の活動を報告。 ・ 11月16日、12月21日に委員会を開催、1月24日、2月22日に地盤特性WGを開催</p>	
<p>群杭挙動の実証的研究委員会 東畑郁生委員長ほか25名 ・ 第8回委員会を平成22年11月30日15:00から東京大学工学部一号館2階セミナー室Bで開催した。 ・ 第9回委員会を平成23年1月27日15:00から東京大学工学部一号館4階セミナー室Aで開催した。 ・ 実験結果CASE1～CASE3までの評価を行った。 ・ 実験CASE4以降を開始する。</p>		

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【関東支部】	地下水位の回復ともなう広域地盤隆起の問題とその地中施設への影響に関する研究委員会 小泉 淳委員長ほか21名、オブザーバー2名 ・ Geo-Kanto2010の研究委員会活動報告セッションの参加 ・ 11月11日 WG-3の第1回WGの開催（トンネル被害事例収集と分析） ・ 12月9日 WG-3の第2回WGの開催（トンネル被害事例収集と分析） ・ 12月15日 第3回委員会の開催 ・ 2月3日WG-3の第3回WGの開催	
	薬液注入工法を用いた地盤改良技術の今後の展開に関する調査・検討会 末政直見委員長ほか18名 ・ 11/30に東京都市大学にて第4回調査・検討会を開催。なお、第4回は 東京都市大学の土槽を用い、薬液の浸透メカニズムについて浸透試験を実施。 東洋大学米倉名誉教授による薬液の耐久性に関する講演。 各ワーキンググループの進捗状況についての報告を行った。 ・ 1/26に第5回調査検討会を開催。 材料・工法の分類のため文献調査の進捗と報告書概略が示された。 設計施工に関して各委員から報告（室内試験方法、ゲルタイムの設定などについて）があり討議を行った。	
	地盤改良材を中心とした廃石膏ボードの再資源化に関する研究委員会 鵜飼恵三委員長ほか21名、オブザーバー2名 ・ 12/7 第一回委員会開催。 ・ 2/4『廃石膏ボードの再資源化と地盤改良への適用に関する講演会』を群馬大学工学部で開催。（NPO 法人北関東産官学研究会と共催）	新設
	事業継続を可能とするための既存構造物周囲の地盤改良(補強)工法に関する研究委員会 岸田隆夫委員長ほか10名、オブザーバー1名 ・ Goe-Kanto2010の研究委員会活動報告セッションにおいて、普及活動の現状などを紹介。 ・ 11/8に研究委員会を開催し、報告書のブラッシュアップ、今後の展開方を議論。来年度に支部主催・本部共催の講習会を東京で5月頃に開催する予定で準備する。	終了 （成果普及活動）
	造成宅地の耐震調査・検討・対策方法に関する事例検討委員会 安田 進委員長ほか6名 ・ パンフレットの配布（東京都防災展、JGS全国大会、栃木県GR講習会etc） ・ 10月19日栃木県GR主催の講習会への講師派遣。（西村幹事、山本幹事） ・ 西村幹事による基礎工（23年4月号掲載予定）でのPR	終了 （成果普及活動）
【中部支部】	第2部会（中部地盤研究会） 板橋一雄委員長ほか34名、5回（+幹事会1回） 濃尾平野の地盤の形成過程と工学的性質との関連を考慮した地盤の理学・工学的視点に立った研究および地盤情報データベースの維持・更新を図る。平成22年度は、今後の研究内容の確認および「最新名古屋地盤図」追補版発刊に関する資料作成を行った。また、市民講座として、なごや環境大学の共有講座の準備を行い、第2回～第5回を開催した。	
	第3部会（中部総合地震防災システム研究委員会） 能島暢呂委員長ほか28名、3回（委員会2回、成果報告会1回） 中部地域における広域総合地震防災システムのあり方に関する研究。各自治体等が有する広域地盤メッシュデータの統括と防災への高度利用法に関する検討。強震動予測から地盤災害、ライフライン等の基盤施設の機能低下予測まで幅広い分野の予測手法のシステム化に関する検討。 平成22年度は、3つの研究WG（1WG：中部地域の地震防災のための地震危険度評価、2WG：詳細地盤データベースと観測情報（震源・地震動情報）を活用した地震動・液状化予測、3WG：地盤構造物・土木構造物の被害予測、4WG：地盤防災のための数値計算法およびGIS/RS技術の利活用）に分かれて活動した。中部地域における活断層の抽出と震度分布・地震リスク評価、詳細メッシュ地盤データベースの作成と地震被害予測、6分野（道路、河川、港湾、造成地、鉄道、ガス・水道・電気）における被害予測・防災対策・復旧支援方法の現状と問題点の調査を実施した。さらに、平成22年12月には、成果報告会を開催した。	
	第7部会（信州地盤環境委員会） 古本吉倫委員長ほか14名、3回（委員会2回、講演会1回） 長野県の地盤に関する研究推進や人的交流、地盤に係わる最新の調査技術・施工技術などの知識の普及を目的として活動を行った。講演会「明治のシルクロード 二線路・和田峠の改修と工事に関わった技術者デ・レイケ、古川坂次郎ら」（山浦直人、長野県上田建設事務所長）206名を行った。	
	中部支部災害緊急調査団 八嶋 厚委員長ほか20名、平成23年3月15日、本部主催による北陸支部と合同での長野県下水内郡栄村周辺の地震被害調査を実施した（3名）。 平成23年3月29日～30日本部主催東北地方太平洋沖地震被害調査に参加した（3名）。	

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【関西支部】	<p>兵庫県南部地震を後世に伝承するための研究委員会 委員長：神戸大学 澁谷 啓 兵庫県南部地震から既に15年が経過し、被災地においても日常の経済活動や生活面で震災の傷跡は癒えたかのである。一方、地震直後から被災地の地盤構造物の復旧・復興に向けて陣頭指揮を執られた数多くの実務者・研究者が第一線を退く時期を迎えている。これまでに、各種学会、研究機関、地方公共団体等のそれぞれで独自に調査研究された阪神大震災関連の技術資料は膨大な量に及ぶが、阪神大震災さらにはその後頻発した各地の大地震による被害の教訓を活かして見直された地盤工学技術が体系的に整理されているとは言い難い。 兵庫県南部地震を体験した地盤工学会関西支部に設立された本研究委員会は、「地震に対する備えを意識した社会基盤づくりへの地盤工学技術の貢献」を根本テーマとしている。具体的には、盛土、自然斜面、ライフライン、道路、鉄道、護岸、堤防等に関して、阪神大震災以降の教訓が、現状における室内試験法、現場調査法、耐震設計、維持管理技術等にどのように活用されているか、あるいは課題として残っているかについて調査研究を行う。この研究委員会で得られる成果は、関西というローカルエリアだけでなく、国際的にも意義深く、社会的にも大きな貢献を果たすとともに地盤工学の発展に大きく寄与できるものと考えられる。 本年度は、昨年と同様、各委員ならびに講師による話題提供と地盤防災・減災に向けた技術・知見の伝承システムをどのように構築していくかについてのディスカッションを行うとともに、4つのWGにおいて各種対象物毎の耐震技術の変遷、管理体制の現状等の検討を実施し、さらに高校、小学校を対象に出前授業を開催し、防災教育についても積極的に取り組んでいる。 来年度が最終年度となり、第46回地盤工学研究発表会でのディスカッションセッションの開催ならびに成果報告書作成に向け活発な活動を実施している。 （委員数：42名、開催回数：全体委員会1回、WG会議6回）</p>	
	<p>地下建設工事においてトラブルが発生しやすい地盤の特性とその対応技術に関する研究委員会 委員長：(株)地域 地盤 環境 研究所 橋本 正 本研究委員会では、地下建設工事における多くのトラブルサム地盤の中でも主に均等係数の小さい細砂と大礫に着目してトラブル事例を収集し、問題となる地盤の堆積環境や物性などの地質的および土質的アプローチから分析をおこない、これらの因果関係や有効的な対策について研究することによって減災を目指すものである。本研究委員会は、本年度から開始したため委員会および幹事会を通じて研究方針を確認し、約2ヶ月に1回のペースでトラブル事例紹介講演会を開催し、地下建設工事におけるトラブル事例の収集を実施している。 （委員数：56名(海外特別委員3名含む)、開催回数：全体委員会1回、事例紹介講演会2回）</p>	
【中国支部】	<p>平成21年7月21日豪雨による山口県防府地区の土砂災害に関する調査研究委員会 兵動正幸委員長ほか14名、会議2回 7.21防府土石流災害に関する調査・研究活動を行った。会議としては、山口大学工学部にて計3回開催し、委員による調査・研究成果および委員会が要請した技術者・研究者による防府災害に対する取組み状況が報告された。また、委員会として調査・研究の方向性、研究成果の示し方について審議した。さらに、平成22年7月15日に発生した山口県中西部を中心に発生した大雨による地盤災害に対して、H21防府災害との比較検討のために、現地調査を行った。今後は、委員会内に3つのワーキンググループ「解析」「試験・計測」「施設被害・対策工」を組織し、それをもとに調査研究活動を進めることになった。</p>	
	<p>土用ダムの堤体の安全性点検委員会 西垣 誠委員長ほか4名、現場視察 土用ダムの平成22年末までのデータにおいて確認すべき事項があったため、現地調査を実施。その結果、当委員会として同ダムの安全性に問題がないと判断した。</p>	
【四国支部】	<p>四国地域地盤問題研究委員会 岡村未対委員長ほか20名、幹事会1回 本委員会は、四国の特有の急峻な地形と脆弱な地質に起因する地盤工学上の種々の問題、南海地震対応、豪雨の土砂災害など、地盤工学に関わる諸課題に対し、次の時代を担う若手研究者・技術者がこれまでの3年間主体的に取り組み、課題に対する理解や情報の収集、若手技術者の育成等について一定の成果を上げたので、今年度限りで終了する。次年度からは「地盤地震防災研究委員会」の設立を検討している。</p>	終了
【九州支部】	<p>地盤情報データベースの活用に関する研究委員会 矢ヶ部秀美委員長ほか15名、委員会1回 九州支部の九州地盤情報システム協議会で作成・刊行されている「九州地盤情報共有データベース2005」および新たに企画されているそのデータベースの第二版を、防災や地盤環境の問題の解決に如何に活用していくかを検討していく。本年度は、九州の主要都市地盤の防災や地盤環境上の問題を明らかにし、地盤情報データベースがその解決ツールとして活用できないか、また地盤情報データベースに望まれる機能や情報の内容についてディスカッションしていくものとする。キックオフミーティングとして、第1回全体委員会を実施した。さらに、今後の委員会の進め方および活動方針をメール審議した。</p>	継続
	<p>九州地盤情報システム協議会 善 功委員長ほか20名、特命委員会2回 平成17年度に公開した九州における地盤情報データベースのCD-ROM版を広く普及させる活動を継続的に行うと共に、更なるデータベースの充実を図るための協議および第二版の出版に向けた準備を進めた。具体的には、九州地盤情報システム特命委員会を設置し、九州・沖縄内の8地区で、第二版の出版に向けて各県に蓄積されている土質・地質データ数を確認し、データ収集を行った。</p>	
計 35 件		

(4) 試験法・調査法の基準制定、ISOへの対応

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
	<p>ISO国内委員会 大谷 順委員長ほか13名、全体委員会1回 本委員会では、ISO/TC182、TC190、TC221およびそれらに関連するCENの会議への対応を行い、我が国の意見をISO規格案に反映すべく地盤関連JISや地盤工学会基準を紹介している。特に、TC182とTC190では、室内土質試験方法と汚染地盤のスクリーニングに関して、主導的な活動を行い、後者に関してはTC190/SC3/WG10の議長国（コンビナー）を担当している。これらの活動については、土木学会および関係省庁にISO活動の重要性を周知し、国際会議派遣費の助成金を得ている。また、「地盤工学会誌」に「ISOだより」を連載している。</p>	
	<p>ISO/TC182国内専門委員会 木幡行宏委員長ほか23名、打合せ1回 ISO/TC182/SC1において審議中の規格案について、幹事国の不手際で審議期間超過となり、一旦はISO中央事務局により強制的に作業項目削除されたものについて、順次、ウィーン協定の適用でCEN/TC341で再提案（NP）された14件の投票を行った。この内、土の分類に関する規格の見直し2件については反対投票を行った。他に、2件の規格について確認投票を行った。</p>	
	<p>ISO/TC190国内専門委員会 平田健正委員長ほか40名、全体会：1回 TC190/SC3/WG10運営WG：2回 ISO/TC190事務局から送付されてくる規格案についてメール審議を行い投票した。コンビナーを日本が務めるTC190/SC3/WG10（予備試験法）において、新たな日本提案の規格案が採用されるよう活動を行った。</p>	
	<p>ISO/TC221国内専門委員会 三木博史委員長ほか17名、メール審議 9件（ISO FDIS 10773; DIS 10772, 10776; SR 12960, 20432; CD 13427, NWI 13427, CIB投票2件）について、審議を行い投票を行った。また、ISO/TC221総会（英国）に委員を2名派遣した。</p>	
	<p>地盤工学表記法委員会 岸田隆夫委員長ほか計10名、3回、メール審議多数 地盤工学用語のJIS規格作成について、経緯、目的、活動内容、スケジュール等の整理・検討、JGS規格からJIS化の候補用語の抽出を行い、地盤工学用語の規格作成WG設立趣意書（案）を作成した。また、新常用漢字への対応について整理、検討を行った。加えて、国際部からのレキシコンの日本語チェック依頼に対応した。</p>	
<p>【基準部】</p>	<p>室内試験規格・基準委員会 古関潤一委員長ほか12名、1回 ほかメール審議 来年度の委員会メンバーを決定した。国土交通省電子納品における土質柱状図模様の不整合について、担当者間で調整を行っている。また、基準の英文化に関する基本方針を決めた。その他、会員からの質問の対応等の恒常的業務を実施した。</p>	
	<p>室内試験規格・基準委員会 WG7 - ベンダーエレメント試験基準化 山下 聡グループリーダーほか13名、1回、ほかメール審議 公示された「ベンダーエレメント法による土のせん断波速度測定方法」案に対するデータシートの様式および解説の執筆方針を検討した。さらに、基準の英文化の作業について検討した。</p>	
	<p>室内試験規格・基準委員会 WG12 - 岩石および岩盤不連続面の動的繰返し強度・変形試験方法基準化検討 伊藤 洋グループリーダーほか9名、1回、ほかメール審議など WG報告書の最終仕上げと繰返し強度試験方法素案について審議し、WG報告書を完成した。また、基準化委員会のメンバーについて検討した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 谷 和夫委員長ほか19名、2回 地盤調査関係JIS6規格「スウェーデン式サウンディング、標準貫入試験、ダッチコーン、砂置換法、道路の平板載荷、現場CBR」のJIS改定を完了した。「地盤調査の方法と解説」の基準改定に着手し、約7割の基準を作成した。会員サービスとして、「地盤調査の方法と解説」に掲載されている基準及び解説に関する質問に対応した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG1 - 物理探査・検層 松島 潤グループリーダーほか 8名、2回 「地盤調査の方法と解説」のうち、第3編物理探査・検層に関する2基準の改定作業を実施した。また、来年度に解説執筆に取りかかるため、資料収集等そのための準備を行った。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG2 - ボーリング・サンプリング 正垣孝晴グループリーダーほか7名、5回 「地盤調査の方法と解説」のうち、第5編サンプリングの6基準の改定作業を実施した。改定作業は、各担当者が各基準に対し改定案を作成しワーキング内で審議した。また、来年度は、第4編のボーリングと併せて、解説の改定を行う予定である。</p>	

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【基準部】	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG3 - 地下水 中村裕昭グループリーダーほか10名、1回 地盤調査の方法と解説書の基準改定に向けた打合せを行い、10基準の改定案を作成した。また、関連するISOについて情報収集を行うとともに、解説執筆に関する目次案を作成した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG4 - サウンディング 田中洋行グループリーダーほか16名、全体会5回、CPT分科会5回、FVT分科会2回、打合せ1回 標準貫入試験および機械式コーン貫入試験について、ISOを踏まえたJIS改正素案を作成し公示に向けての準備を行った。原位置ベーンせん断試験、ポータブルコーン貫入試験、簡易動的コーン貫入試験と電気式コーン貫入試験についてJGS基準改定案を作成し、審議を行った。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG5 - 載荷試験 細野高康グループリーダーほか10名、全体会1回、幹事会1回 孔内水平載荷試験及び岩盤のプレッシャーメータ試験を指標型プレッシャーメータ試験、ポアホールジャッキ試験、物性評価型プレッシャーメータ試験として再構成した基準案の作成した。また、地盤の平板載荷試験、剛体載荷板による岩盤の平板載荷試験方法の統合について検討した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG6 - 現場密度試験 三嶋信雄グループリーダーほか5名、7回 現場密度試験の5規格・基準について、各基準の整合性を確認し、改訂方針を決定した。砂置換法は公示を完了し意見をうけての内容の修正、各基準については原案を作成してWG内で審議した。WGで審議された原案は、規格・基準委員会に上申した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG7 - 現地計測 上野将司グループリーダーほか10名、2回 「地盤調査の方法と解説」の改定のうち、「現地計測に関わる地盤工学会基準」の改定作業を進めた。WGメンバーで分担して各基準の改訂を行い、それをWG会議で討議、審議する方法で進め、改訂原稿を作成した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG8 - 環境化学分析のためのサンプリング 平田健正グループリーダーほか9名、2回 地盤調査の方法と解説書の改定に向け、地盤汚染調査関連の現行7基準の確認および修正作業を行った。また、解説文の目次案の検討を行うとともに、執筆作業を開始した。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG9 - 地盤調査の計画、資料調査・地質調査 木谷日出男グループリーダーほか5名、1回 担当である基準「岩盤の工学的分類方法」および「岩盤不連続面分布の幾何学的情報に関する調査方法」につき、原案を作成し、現在メール審議中である。2011年3月に予定されていた第2回WGは震災のため延期となった。</p>	
	<p>地盤調査規格・基準委員会 WG10 - 地盤環境調査 稲垣秀輝グループリーダーほか15名、1回 前回委員会での議論を反映した目次案が作成された。また各執筆担当者の作業進捗状況の報告と、それに対する議論が行われた。今後の工程として、次回委員会（5月27日）までに各委員が第一次原稿を作成することとなった。</p>	
	<p>地盤設計・施工基準委員会 北詰昌樹委員長ほか12名、0回 地盤構造物の「設計・施工」に関する基準またはマニュアルの見直しを基準の整備方針として推進した。特に、「実務基準」では、受託WGとして「地山補強土工法の設計施工マニュアル」に関するマニュアル作成と「グラウンドアンカー設計施工基準」の改訂作業と解説の作成に関して、各WGから上申されるマニュアル案、基準改正案などの審議を適宜実施した。</p>	
<p>地盤設計・施工基準委員会 WG3 - グラウンドアンカー 山田 浩グループリーダーほか16名、全体会3回、幹事会1回 「グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説」の基準改正に伴い解説執筆を行った。</p>		
計 21 件		

(5) 受託研究・技術指導

担当部	委員会名称：委員会構成、開催回数（幹事会、WG等を含む）、主な実施内容等	備考
【調査・研究部】	<p>表層地盤情報データベース連携に関する研究委員会 安田 進委員長ほか20名、全体委員会：1回、WG：2回 平成18年度科学技術振興調整費の重要課題解決型研究で、防災科学技術研究所を中核とする「統合化地下構造データベースの構築」の中の、「サブテーマ2：データベース連携・統合化のための分散管理型システムの開発」のうち、表層地盤情報データベース連携の研究（5年目）を担当した。研究の要点は、（1）全国電子地盤図の全国的連携の方法の確立、（2）全国電子地盤図閲覧システムの完成と公開、（3）地域地盤情報クリアリングハウスの構築、等を行った事である。3月10日の防災科研主催「統合化地下構造データベース構築シンポジウム」で5年間の研究成果を発表した。</p>	
	<p>横浜環状北線地盤変動監視委員会 龍岡文夫委員長ほか4名、1回 前年度に引き続き、地盤変動の現状を把握するとともに、地盤調査と室内土質試験の結果を確認し、監視のためのデータの収集、検証を行った。</p>	
計 2 件		

3. 技術推進事業【公3】

(1) 継続教育（講習会，system構築・記録管理・証明）

1) 講習会の開催

担当部	開催期日	名 称	講演題数	参加者数	開催場所
【事業部】	22.11.12	地盤の応答解析入門講習会	6	81	LMJ東京研修センター
	22.11.24	既設構造物直下の液状化対策工法講習会	4	30	JGS会館
	22.12.6	地盤・耐震工学入門講習会	6	29	JGS会館
	22.12.8	建設・産業副産物の地盤工学的有効利用講習会	8	23	JGS会館
	22.12.9	地盤工学者のための舗装入門 -基礎から応用まで-講習会	6	21	JGS会館
	22.12.10	切土・盛土および斜面の自然災害 災害事例と復旧および対策講習会	6	79	LMJ東京研修センター
	22.12.13	土を固める原理と応用講習会	6	36	JGS会館
	22.12.20	地盤に関する解析技術（個別要素法）講習会	6	58	JGS会館
	23.1.7	治水利水施設の自然災害に対する減災と対策講演会	6	43	JGS会館
	23.1.17	実務における圧密沈下予測とその対策技術講習会	8	51	JGS会館
	23.1.18	建設工事における環境保全技術講習会	8	30	JGS会館
	23.1.20	基礎構造物の信頼性設計講習会	6	39	JGS会館
	23.1.31	はじめて学ぶ土壌・地下水汚染講習会	6	29	JGS会館
	23.2.9	トラブルから何を学んだか講習会	4	54	JGS会館
	23.2.14	特殊土の基本性質講習会	4	44	JGS会館
【北海道支部】	22.12.15	実務家のための火山灰質土講習会	7	158	北海道大学学術交流会館
	23.1.14		8	97	北見工業大学
【東北支部】	23.3.8	「地盤の地震応答解析入門」講習会	6	30	東北学院大学工学部
【関東支部】	22.12.17	書籍「関東の地盤」及び地盤情報データベースに関する講習会	7	30	JGS会館
	22.12.22	技術講習会	2	19	千葉市生涯学習センター
【中国支部】	22.11.12	「実務者のための盛土・宅地基礎地盤の改良と補強」講習会	2	17	鳥取市総合福祉センター
	22.11.25	平成22年度「海外技術情報講習会」	1	18	広島市まちづくり市民交流プラザ
	22.11.26	講習会「道路土工-切土工・斜面安定工・盛土工-」	2	41	徳山工業高等専門学校
	23.1.25	講習会「土砂災害の発生メカニズムに対する最新の研究動向」	2	40	山口大学
【四国支部】	23.1.18	液状化を考慮した構造物の耐震点検の講習会	3	108	サンポートホール高松
【九州支部】	22.11.18	「擁壁・山留の設計演習」講習会3回シリーズ 第3回 山留め工法の種類と設計法について	1	8	地盤工学会九州支部事務局会議室
計 25 件			131	1213	

2) 継続教育システム構築、記録管理、証明

(2) 国際交流, 国際的学術・技術交流

1) 国際会議・シンポジウム

担当部	活動項目	開催場所
【国際部】	国際地盤工学会に関する8の技術委員会の運営	
	国際シンポジウム(IS)等の企画・開催 - 詳細は下記のとおり -	

2) 国際講演会等の開催

担当部	開催期日	名 称	参加者数	開催場所
【関東支部】	22.12.22	国際講演会 「Principles of Geotechnical Forensic Engineering and Case Studies (地盤技術における法工学の基本と事例)」 講師:台湾科学技術大学 ウェイ・リー博士	14	JGS会館
【九州支部】	22.12.20	ジオテクミーティング「From wave propagation to element and physical model tests in soil laboratory」	20	九州大学
計 2 件			34	

3) 国際シンポジウム(IS)等の企画・開催

担当部	開催期日	名 称	登録論文数	参加者数	開催場所
		該当なし			

4) 国際シンポジウム(IS)等の開催準備

担当部	開催予定期日	名 称	開催場所
【国際部】	23.5.23-27	国際地盤工学会第14回アジア地域会議	香港
	23.7 (発表会期間中)	第4回日韓地盤工学ワークショップ	神戸
	23.8.31-9.3	IS-Seoul (2011)	ソウル
	24.8.27-29	第2回交通地盤工学に関する国際会議 (IS-Hokkaido 2012)	札幌市
	24.9.18-20	第9回波動理論の杭への応用に関する国際会議 (IS-Kanazawa 2012)	金沢市

5) 国際関係委員会等

担当部	委員会名称: 委員会構成、開催回数(幹事会、WG等を含む)、主な実施内容等	備考
【国際部】	Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会(Asian-TC3) 東畑郁生委員長ほか国内6名国外3名(募集中)、0回 2010年3月にミャンマーの斜面災害の実態を視察した。同5月に台北の東南アジア地盤工学会議にて地震と降雨による複合斜面災害のセッションを主催した。2010年10月には仙台において地震と降雨による地盤災害に関する第4回台湾-日本ワークショップを開催した。現在新たに国内メンバーを決め、さらに国際メンバーを募集中である。	
	Laboratory Stress Strain Strength Testing of Geomaterials 国内委員会 (ISSMGE-TC101) 古関潤一委員長ほか12名、1回 TCが新体制となるのに応じて国内委員会も新メンバーを加えて強化した。2011年開催予定のIS-Seoulに向けて、SOILS AND FOUNDATIONS特集号発刊等、実施協力の具体的な方策について協議し準備を進めている。さらに、室内土質試験の最新の知見および実務への適用事例を紹介するサマリーブックの企画・編集について検討を開始した。	
	Urban Geo-Informatics 国内委員会(Asian-TC10) 三村 衛委員長ほか20名、1回 第45回地盤工学研究発表会(松山)において、表層地盤情報データベース連携に関する研究委員会と共同でディスカッション・セッションを企画・運営した。論文は委員会関連報告8編を含め、19編の投稿があった。また、2010年5月に台湾で開催された17SEAGC(第17回東南アジア地盤工学会議)において、特別セッションを開催した。国内外からの7編の論文発表が行われた。2011年に開催される第14回アジア地域会議(香港)において特別セッションを開催する予定で、準備の一環として委員会メンバーに論文投稿を依頼した。また2011年7月に神戸市で開催される第46回地盤工学研究発表会においてディスカッションセッションの開催を申請した。	
	Geoen지니어ing for Conservation of Cultural Heritage and Historical Sites 国内委員会(Asian-TC19) 岩崎好規委員長ほか10名、1回 ATC19は、2010年6月に新設された。連絡調整会議を2010年8月地盤工学会松山大会において開催した。アジアにおける文化遺産や歴史的遺跡の保存における地盤工学の意見交換、技術交流の場となることを目指している。古代における建築基礎、版築技術、アドベ(日干し煉瓦)、城砦の基礎石垣、岩盤風化、塩類風化、などの問題の展望を示し、残された課題を整理する。2011年5月国際地盤工学会アジア地域会議でSpecial Sessionが開かれる予定となり、ATC19の開催に向けて準備を行っている。2011年地盤工学会全国大会においては、討議セッションを開催する予定である。	
計 4 件		

4.表彰関連事業〔公4〕

(1)表彰

1)学会賞

賞の区分	受賞業績名/業績発表文献	受賞者名	授与するもの	授与期日
地盤環境賞	浚渫土を用いたりサイクル材による人工島の大量・急速施工 / 第54回地盤工学シンポジウム (2009.11) ほか	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所 羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体	賞状、楯、賞金	23.6.10
地盤環境賞	地球シミュレータを用いた二酸化炭素地下貯留の大規模シミュレーションシステムの開発と実用化 / 「地盤工学会誌」Vol.57(4) ほか	山本 肇 (大成建設(株)) 七井慎一 (大成建設(株)) 張 可霓 (北京師範大学) 西川憲明 ((独)海洋研究開発機構) 緒方隆盛 (日本電気(株)) 中島研吾 (東京大学)	"	"
技術業績賞	東京国際空港D滑走路建設外工事 「軟弱地盤上における大きな盛土荷重下における埋立人工島の情報化施工」 / 第54回地盤工学シンポジウム (2009.11) ほか	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所 羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体	"	"
技術業績賞	九州新幹線熊本総合車両基地造成事業 / 第41回地盤工学研究発表会 (2006.7) ほか	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	"	"
技術業績賞	ダム堤体近傍における急崖斜面の予防保全 先端技術による危険岩体の安定性評価と環境に調和した斜面对策 / 第34回岩盤力学に関するシンポジウム (2005.1) ほか	国土交通省北海道開発局札幌開発建設部豊平川ダム統合管理事務所 (株)ドーコン	"	"
技術開発賞	汚染帯水層を対象とした揚水循環併用バイオスパーキング工法 (注水バイオスパーキング工法) の開発 / 「地盤工学会誌」Vol.58(2) ほか	高畑 陽 (大成建設(株)) 有山元茂 (大成建設(株)) 大石雅也 (大成建設(株)) 池上和広 (大成建設(株)) 桐山 久 (東邦ガス(株))	"	"

賞の区分	受賞業績名 / 業績発表文献	受賞者名	授与するもの	授与期日
研究業績賞	災害調査をもとにした地震時の地盤および構造物の挙動に関する研究 / 「地盤工学会誌」 Vol.58(4) ほか	安田 進(東京電機大学理工学部)	賞状、楯、賞金	23.6.10
	授賞理由：本業績は、国内外の地震被害調査に赴き、被害状況の把握と被災メカニズムの解明を行い、それを世間に伝えるとともに、こうした地震災害に対する予測と対策に関する研究成果の集大成ともいうべきものである。この種の研究には、単なる被害調査となってしまうケースが散見されるが、本業績では液状化や斜面崩壊といった地盤災害に対する基礎的な研究の蓄積に裏付けられた深い見識によって、今後の震災対策に大きな示唆を与える内容を含んだものとなっている。また調査団長として後進の若手研究者を災害現場で教育するという観点からも高く評価できるものとなっている。以上より、これらの一連の業績は、地盤工学において学術、技術の進展に顕著な貢献をしており、研究業績賞としてふさわしいと認められた。			
研究業績賞	不飽和土質力学の地盤工学への適用 / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.47(5) ほか	向後雄二(東京農工大学大学院農学府)	"	"
	授賞理由：本業績は、不飽和土の力学的および水理学的特性を弾塑性論的に解釈し、そのモデル化と地盤工学への適用に関する集大成である。具体的には、サクシジョンの増加による有効応力の増加と降伏応力の増大の効果と合理的に定量化し、弾塑性モデルとして定式化したものである。一連の研究はフィルダムや堤防などの盛土構造物や自然斜面、地下水面下であっても空気の混入した地盤など、あらゆる不飽和地盤の安定性評価に寄与するとともに、降雨による斜面不安定化の解析にも有効である。さらに地震などを想定した繰返し荷重に対するモデル化も可能である。以上より、これらの一連の業績は、地盤工学において学術、技術の進展に顕著な貢献をしており、研究業績賞としてふさわしいと認められた。			
論文賞 (和文部門)	河川堤防砂礫の変形・強度特性の評価手法に関する考察 / 「地盤工学ジャーナル」 Vol.5(2) (地盤工学会創立60周年記念シンポジウム特集号)	小高猛司(名城大学) 板橋一雄(名城大学) 中島康介(中日本建設コンサルタント(株)) 牧田祐輝(名城大学) 李 圭太((株)建設技術研究所) 上村俊英((株)建設技術研究所) 坪田邦治(中部土質試験協同組合) 加藤雅也(中部土質試験協同組合)	"	"
	授賞理由：本論文は、3種類の河川堤防砂礫材料を用いて、大型三軸試験と小型三軸試験を排水条件を変えて系統的に実施し、得られる強度定数に及ぼす粒度の影響を明らかにしたものである。粒度調整した小型三軸試験から得られる強度定数を用いた適切な評価方法を提案している。河川堤防の力学特性は最近改めて注目されている重要テーマであり、小型三軸試験より得られた成果を実務にどのように用いるかの提案(原位置変形・強度特性の評価方法や留意点)を行っており実用面での価値も高い。以上より、本論文は論文賞(和文部門)としてふさわしいと認められた。			
論文賞 (和文部門)	圧縮ベントナイト緩衝材のせん断破壊時の性能評価 / 「地盤工学ジャーナル」 Vol.5(2) (地盤工学会創立60周年記念シンポジウム特集号)	小高猛司(名城大学) 寺本優子(セントラルコンサルタント(株)) 平手寿大(名城大学) 元山泰久(名城大学)	"	"
	授賞理由：本業績は高レベル放射性廃棄物の地層処分を目的とした緩衝材としてのベントナイト特性に関する性能評価に関するものである。数万年の時間スケールを考慮して、不飽和および飽和時の性能特性を明らかにしている。新開発の高圧一面せん断試験により不飽和と飽和条件ではせん断抵抗角が倍半異なることを示すとともに、マイクロスコープとPIV画像解析を組み合わせたシステムを構築して圧縮ベントナイトのミクロレベルの破壊挙動の観察に成功した。更にせん断試験後に透水試験を実施して、損傷を受けたベントナイト緩衝材が遮水機能を喪失しないことを明らかにした。これらの研究成果は独創性に優れるとともに工学的重要性の高いことから、本業績は論文賞(和文部門)としてふさわしいと認められた。			
論文賞 (和文部門)	剛な構造物近傍の埋戻し地盤の地震時沈下挙動に関する遠心力模型実験とその数値シミュレーション / 「地盤工学ジャーナル」 Vol.5(1)	河井 正((財)電力中央研究所) 石丸 真((財)電力中央研究所) 野田利弘(名古屋大学大学院工学研究科) 浅岡 顕((財)地震予知総合研究振興会)	"	"
	授賞理由：2007年新潟県中越沖地震では、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の原子炉建屋近傍の局所的な埋戻し土の沈下が生じた。本論文は、このような現象を遠心力模型振動実験で再現し、剛な構造物近傍の埋戻し土の沈下が、近傍の土砂が構造物躯体から剥離する際に生じることを見出した。さらに、弾塑性構成式を用いたシミュレーションによって、遠心振動実験結果から分析・推定された沈下メカニズムの妥当性を確認している。成果は、今後、同様な地震時の地盤変状の予測や対策に活かされるものである。以上、本論文は、沈下現象のメカニズムの解明に加え、原子力施設の安全性の向上に寄与するものとして、論文賞(和文部門)にふさわしいと認められた。			
論文賞 (英文部門)	NUMERICAL ANALYSIS OF THE EROSION AND THE TRANSPORT OF FINE PARTICLES WITHIN SOILS LEADING TO THE PIPING PHENOMENON / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.50(4)	藤澤和謙(岡山大学大学院環境学研究科) 村上 章(京都大学大学院農学研究科) 西村伸一(岡山大学大学院環境学研究科)	"	"
	授賞理由：本論文は、連続体力学を基礎とした土質力学の範疇では従来困難と考えられてきた、土の侵食・ハイピング現象の解析・再現に取り組んだ論文である。侵食速度の概念を導入することにより、連続体力学における諸量をもとにして土の内部侵食の解析を可能にしており、特にパイピングによる長期的な解析で「水みち」まで再現している点は、明快かつ斬新なアイデアの独創性で、高く評価できる。本手法を用いると今後は河川堤防や斜面の地下水位の挙動、降雨による不安定化や崩壊現象の解明に対しても取り扱うことができると考えられ、それらの対策工法の検討に利用できるなど、その実用性は高いと判断でき、本論文は論文賞(英文部門)としてふさわしいと認められた。			

賞の区分	受賞業績名 / 業績発表文献	受賞者名	授与するもの	授与期日
論文賞 (英文部門)	ESTIMATION OF THE AIR PERMEABILITY COEFFICIENT AND THE RADIUS OF VACUUM INFLUENCE FOR CONTAMINATED SOIL AND GROUNDWATER REMEDIATION / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.50 (1)	日比義彦(名城大学) 神野健二(九州大学名誉教授) 増岡健太郎(大成建設(株)) 川端淳一(鹿島建設(株))	賞状、楯、賞金	23.6.10
論文賞 (英文部門)	LIQSEDFLOW : ROLE OF TWO-PHASE PHYSICS IN SUBAQUEOUS SEDIMENT GRAVITY FLOWS / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.50 (4)	佐々真志((独)港湾空港技術研究所地盤・構造部) 関口秀雄(大阪市立大学理学部)	"	"
研究奨励賞	土粒子の破碎現象とそれに伴う粒度変化の影響を考慮した地盤材料の構成モデルの開発 / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.50 (4)	菊本 統(名古屋工業大学)	"	"
研究奨励賞	液状化した地盤の側方流動と群杭基礎との相互作用に関する模型実験研究 / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.50 (2)	Ramin Motamed (Arup Geotechnics)	"	"
研究奨励賞	CO-SEISMIC AND POST-SEISMIC BEHAVIOR OF AN ALTERNATELY LAYERED SAND-CLAY GROUND AND EMBANKMENT SYSTEM ACCOMPANIED BY SOIL DISTURBANCE / 「SOILS AND FOUNDATIONS」 Vol.49 (5)	竹内秀克((株)不動テトラ)	"	"

計 17 件

(注:受賞者の所属は応募当時)

2) 地盤工学貢献賞

所属支部	受章者	所属	授与するもの	授与期日
北海道	工藤 豊	北海道大学工学系技術センター 技術部ヒューマン技術室長 技術専門員	賞状、楯	23.4.26
東北	伊藤 驍	秋田工業高等専門学校 名誉教授	"	23.4.28
"	伊藤 賢一	(株)復建技術コンサルタント 理事	"	"
"	佐々木 俊吉	(社)秋田県林業コンサルタント 参事	"	"
関東	原 喜伴	早稲田大学 元職員	"	23.4.26
"	小川 富美子	元 運輸省港湾技術研究所土質部 主任研究官	"	"
"	松本 一明	前 応用地質(株)営業本部 顧問	"	"
"	吉田 喜忠	前 東京電機大学理工学部 専任講師	"	"
中部	中部地質調査業協会		"	23.4.21
関西	本郷 隆夫	(財)地域地盤環境研究所御影研究室 室長	"	23.4.19
九州	長崎地盤研究会		"	23.4.26
計 11 件				

3) - 1 特別会員再表彰

所属支部	会員名	等級	授与するもの	授与期日
北海道	(株)大林組札幌支店	2級	賞状、楯	23.4.26
"	(株)ドーコン	2級	賞状	"
"	伊藤組土建(株)	4級	賞状、楯	"
"	(株)道北開発試験センター	4級	賞状	"
東北	日栄地質測量設計(株)	3級	"	23.4.28
北陸	(株)キタック	3級	"	"
関東	(株)大林組技術研究所	1級	賞状、楯	23.4.26
"	(株)熊谷組	1級	"	"
"	五洋建設(株)技術研究所	1級	"	"
"	大成建設(株)技術センター	1級	"	"
"	電源開発(株)水力エンジニアリング部	1級	"	"
"	東亜建設工業(株)	1級	"	"
"	東京電力(株)	1級	"	"
"	前田建設工業(株)	1級	"	"
"	佐藤工業(株)	2級	"	"
"	菱光石灰工業(株)生川事業所	3級	賞状	"
"	テスコ(株)	4級	"	"
"	(株)ピーエス三菱技術本部	4級	"	"
"	住友金属工業(株)	4級	"	"
"	太平洋セメント(株)中央研究所	4級	"	"
"	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	4級	"	"
"	大成建設(株)東京支店	4級	"	"
"	(株)トーコー地質	4級	"	"
中部	(株)三祐コンサルタント	4級	"	23.4.21
"	(株)帝国建設コンサルタント	4級	"	"
"	(株)ジーベック	4級	"	"
関西	(株)竹中工務店大阪本店	3級	賞状、楯	23.4.19
"	(株)間組大阪支店	4級	"	"

所属支部	会 員 名 等 級	授与するもの	授与期日
中国	中国電力(株) 1級	賞状、楯	23.4.22
"	大成建設(株)広島支店 1級	"	"
"	(株)大本組 4級	"	"
"	アイサワ工業(株) 4級	"	"
計 32 会員			

3) - 2 特別会員表彰

所属支部	会 員 名 等 級	授与するもの	授与期日
北海道	(株)シー・イー・サービス 4級	賞状、楯	23.4.26
"	東日本高速道路(株)北海道支社 4級	賞状	"
東北	日本原燃(株)再処理事業部土木建築部土木建築技術課 4級	賞状、楯	23.4.28
"	国土交通省東北地方整備局仙台港湾空港技術調査事務所 4級	賞状	"
北陸	中部地下開発(株) 4級	賞状、楯	"
関東	(財)沿岸技術研究センター 4級	"	23.4.26
"	(株)ミカミ 4級	"	"
"	(財)茨城県建設技術管理センター 4級	"	"
"	全国マイ独楽工業会 4級	"	"
"	(株)エフイーシー 4級	賞状	"
"	(財)先端建設技術センター 4級	"	"
"	大和小田急建設(株) 4級	"	"
"	(株)ソイル・エング 4級	"	"
"	(株)東部 4級	"	"
"	特許庁 4級	"	"
中部	中部地質調査業協会 4級	賞状、楯	23.4.21
関西	大阪府道路公社 4級	"	23.4.19
"	(株)フジタ大阪支店 4級	"	"
"	大幸工業(株) 4級	"	"
"	神戸市みなと総局西神整備事務所 4級	賞状	"
"	住友金属工業(株)大阪土木建材室 4級	"	"
中国	(財)岡山県環境保全事業団 4級	"	23.4.22
四国	青葉工業(株) 4級	賞状、楯	23.4.26
九州	若築建設(株)九州支店 3級	"	"
"	国土交通省九州地方整備局下関港湾空港技術調査事務所 4級	賞状	"
"	国土交通省九州地方整備局港湾空港部 4級	"	"
"	国土交通省九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所 4級	"	"
"	国土交通省九州地方整備局苅田港湾事務所 4級	"	"
"	国土交通省九州地方整備局長崎港湾空港工事事務所 4級	"	"
"	(株)日衛 4級	"	"
"	(株)テクノックス九州 4級	"	"
計 31 会員			

4) 事業企画賞(第13回)

賞の区分	受賞業績名	受賞者名	授与するもの	授与期日
事業企画賞	男女共同参画に関する取り組み	企画部 過去5年間の男女共同参画を担当してきた企画部員 代表者 工藤里絵 杉本映湖	賞状、楯	23.6.10

賞の区分	受賞業績名	受賞者名	授与するもの	授与期日
事業企画賞	地盤工学会60周年記念DVD	調査・研究部 学術情報委員会の構成（製作当時のメンバーを含む） 代表者 深田 久（元委員長） 井上波彦（現委員長） 濱田純次 廣岡明彦 根岸昌範 金田一広 磯部公一	賞状、楯	23.6.10
	落石の機構解明と対策工の開発：「落石対策Q&A」の刊行	四国支部 地盤工学会四国支部落石対策研究会 代表者 矢田部龍一 筒井秀樹 右城 猛 吉田 博 須賀幸一 吉村和司 加賀山肇 西岡南海男 松山哲也 能野一美 高森秀次 田中登志夫	〃	〃
	事業継続を可能とするための既存構造物周囲の地盤改良（補強）工法に関する研究報告書作成及び講習会	関東支部 事業継続を可能とするための既存構造物周囲の地盤改良（補強）工法に関する研究委員会 代表者 岸田隆夫（委員長） 三反畑勇 石井裕泰 内田明彦 大石幹太 小峯秀雄 末政直晃 高橋英紀 田村昌仁 林 健太郎 深田 久 末岡 徹 安田 進	〃	〃
計 4 件				

5) 「地盤工学会誌」年間最優秀賞、優秀賞

賞の区分	受賞業績名 / 業績発表文献	受賞者名	授与するもの	授与期日
年間最優秀賞	「地盤工学の最近10年の歩み 7. 地盤調査 - ボーリング・サンプリング - 」 / 平成22年1月号(60周年記念号)掲載（報告）	田中洋行 （北海道大学大学院工学研究科）	賞状、楯	23.6.10
年間優秀賞	「時代の要請に応える土の繰返しせん断変形特性試験の確立を」 / 平成22年2月号掲載（総説）	吉田 望（東北学院大学工学部環境土木工学科） 三上武子（応用地質（株）コアラポ）	〃	〃
	「新しいサウンディング技術」 / 平成22年8月号掲載（報告）	利藤房男（応用地質（株）技術本部） 沢田俊一（応用地質（株）東京本社） 伊藤義行（応用地質（株）機器事業本部）	〃	〃
計 3 件				

6) 国際会議若手優秀論文賞

賞の区分	受賞業績名 / 業績発表文献	受賞者名	授与するもの	授与期日
国際会議若手優秀論文賞	Simple modelling of stress-strain behaviour of unsaturated soils / 第14回アジア地域地盤工学会議論文集	菊本 統 （名古屋工業大学大学院）	賞状、楯	23.6.10
	Strain field measurement on sand using X-ray CT data and DIC / 第14回アジア地域地盤工学会議論文集	渡邊陽一 （熊本大学大学院自然科学研究科）	〃	〃
	In-situ and laboratory tests for evaluating the stability of a sand dune / 第14回アジア地域地盤工学会議論文集	川尻峻三 （神戸大学大学院工学研究科）	〃	〃
	Progressive Failure of a Cement-Treated Ground in Bearing Capacity Problem / 第14回アジア地域地盤工学会議論文集	椎名貴彦 （五洋建設（株）技術研究所）	〃	〃
	Surface Settlement Maintenance Using FRSP during Tunnel Excavation / 第14回アジア地域地盤工学会議論文集	崔 瑛 （名城大学理工学部建設システム学科）	〃	〃
計 5 件				

7) 支部賞等

賞の区分	受賞業績名	受賞者名	授与するもの	授与期日
【北海道支部】				
支部賞	岩石の凍上圧に関する基礎的研究 - 凍上発生位置の強度依存性 -	中村 大 (北見工業大学)	賞状、記念品	23.4.26
	自然由来による重金属等(ヒ素)汚染盛土の処理工法と溶出特性に関わる短期現場試験	植松えり子 (株)イーエス総合研究所)	"	"
	雪堆積場としての適用性に関する火山灰地盤の透水性評価	宮浦征宏 (宮浦興業(株)) 中田隆文 (上山試錐工業(株))	"	"
支部賞 (学生部門)	凍結融解履歴を有する破砕性火山灰質土斜面の崩壊機構に関する模型実験	奥田健太 (室蘭工業大学大学院)	"	"
	Dependency of shear behavior of base coarse materials on moisture content evaluation by multi-ring shear testing	Inam Aasim (北海道大学大学院)	"	"
【東北支部】				
支部賞 (最優秀賞)	日本海沿岸東北自動車道大館 - 小坂間 大茂内第二トンネル及び雪沢第一トンネルにおける自然由来重金属含有掘削土処理に係る施工監理	鈴木 浩 (国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所) 門間聖子 (応用地質(株)東北支社) 行仁加センタ-) 中西壽美雄 (応用地質(株)秋田支店) 細野哲久、久木原峯隆 (応用地質(株)盛岡支店)	楯 賞状、記念品	23.4.28 本人に 郵送
	荒砥沢ダム災害復旧に伴う、真空圧密工法による減容化を利用した調整池造成工事	鎌田知也、竹谷喜代春、加藤浩一 (農林水産省東北農政局) 岩崎孝道、野崎俊介、橋本 隆 (清水・竹中土木建設工事共同企業体) 波多野正邦 (清水建設(株)東北支店) 豊田光明、コホン ティチャイカムニョク (丸山工業(株))	"	"
支部賞	急速構築を目指した線路下横断構造物の設計施工 - 奥羽本線 新青森公道橋 -	佐藤拓也、古宮堅太郎、村上安二、坂本浩貴 (東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所)	賞状、記念品	"
	強変質地山における支保の変状対策と覆工補強 (東北中央自動車道大笹生トンネル工事) - 塑性地山における変状要因の調査と対策および対策効果の検証 -	大沼正浩、小関 均、小川 勲、神宮将夫 (飛鳥建設(株)東日本土木支社) 松元和伸 (飛鳥建設(株)技術研究所)	"	"
	地震災害・市野々原地区避難勧告の早期解除に向けた治山対策	小澤幸彦 (岩手県農林水産部森林保全課) 梅村昭栄 (県南広域振興局一関農林振興センター) 柴崎達也 (国土防災技術(株)技術本部) 佐藤達也 (国土防災技術(株)盛岡支店) 熊谷智幸 ((社)岩手県治山林道協会)	"	"
【北陸支部】				
	【該当なし】			
【関東支部】				
優秀講演賞	Shear strength parameters of clay seam in the Mae Moh open-pit lignite mine of Thailand	Heng Sokbil (東京工業大学)	賞状	22.11.12
	粒状体の微視的構造に粒度が及ぼす影響	上田高生 (筑波大学)	"	"
	Anisotropic properties of Tago tuff based on ultrasonic wave velocity measurements	Nayana Madurya Adikaram (埼玉大学)	"	"
	製鋼スラグ混合土の混合条件が一軸圧縮強さに及ぼす影響	平井 壮 ((独)港湾空港技術研究所)	"	"
	一軸圧縮試験によるファイバー状タイヤチップ混合固化処理土の強度特性に与えるタイヤチップ混合率の影響	坂野 彰 (茨城大学)	"	"
	Strength characteristics of granular materials with adhesion force arising from liquid bridges	Nguyen Hoang Long (筑波大学)	"	"

賞の区分	受賞業績名	受賞者名	授与するもの	授与期日
優秀講演賞	浅層地中熱の実態調査	藺部俊博 (群馬大学)	賞状	22.11.12
	造粒固化土を用いた人工海浜の波浪来襲時地盤特性に関する基礎実験	桑原拓馬 (横浜国立大学)	"	"
	前進施工による深層混合処理施工時の変位低減効果	関 友亮 (株)不動テトラ)	"	"
	フライアッシュを混合したベントナイトの固化および膨潤特性	嶋倉ちづる (群馬大学)	"	"
	Effect of container boundary on vertical load of model piles in dry sand	Adnan Anwar Malik (埼玉大学)	"	"
	親杭横矢板壁の設計への杭基礎の地盤反力係数算定式の適用	松丸貴樹 (財)鉄道総合技術研究所)	"	"
	大谷採石地下空間の有効利用のための温度環境の推定について	井上達也 (宇都宮大学)	"	"
	コニカルマットを用いた河川堤防の耐震対策について	藤田大樹 (関東学院大学)	"	"
	簡易的な小型コーン・ペーン試験機の開発	後藤洋輔 (中央大学)	"	"
	逆断層の断層変位による地表面変形の食い違い弾性理論を用いた検討	大草陽太郎 (横浜国立大学)	"	"
	戸建て住宅の免震技術に関する文献調査	牧 恭子 (横浜国立大学)	"	"
	斜面崩壊の簡易なモニタリング装置に関する実験的検討	三國智温 (東京都市大学)	"	"

【中部支部】

優秀賞	津波襲来時における海底地盤の変形に起因した防波堤の不安定化	今瀬達也 (名古屋工業大学)	賞状、記念品	23.4.21
技術賞	富士山の大規模斜面における落石調査例	岡野 肇 (応用地質(株))	"	"

【関西支部】

社会貢献賞	土質試験結果の精度・不確かさ評価の意義とその地盤工学的応用	澤 孝平 ((協)関西地盤環境研究センター) 中山義久 ((協)関西地盤環境研究センター) 中田有美 ((協)関西地盤環境研究センター)	賞状、記念品	23.4.19
地盤技術賞	超音波による土中水分・水位モニタリング技術	田中克彦 (立命館大学) 深川良一 (立命館大学) 酒匂一成 (立命館大学) 平岡伸隆 (立命館大学) 島村 誠 (東日本旅客鉄道(株)) 外狩麻子 (東日本旅客鉄道(株))	"	"

【中国支部】

土質工学セミナー報告賞	土のうの力学的効果の模型実験	藤井俊逸、齋藤龍太 ((株)藤井基礎設計事務所)	賞状、記念品	23.4.22
	粒子法を用いた斜面崩壊到達距離の推定の試み	川口将季、小村尚史、加納誠二、陸田秀実 (広島大学)	"	"
支部賞論文賞	平成21年7月中国・九州北部豪雨における防府地域の斜面崩壊形状とその特徴	阪口和之 (アジア航測(株))	"	"

【四国支部】

支部賞研究・論文賞	地すべり調査での地下水観測孔の構造について	山田政典 (応用地質(株)) 田村浩行 (応用地質(株)) 一色弘充 (応用地質(株))	賞状	23.4.26
支部賞技術開発賞	小型簡易地盤支持力試験器の開発	中山憲士 (ランデックス工業(株)) 山中 稔 (香川大学工学部) 岩原廣彦 (財)四国産業・技術振興センター)	"	"
支部賞技術賞	四国初の静的コンパクション工法による地盤改良について - 撫養港海岸堤防改良工事 -	堤 隆亮 (東洋建設(株)四国支店) 後藤文男 (国土交通省四国地方整備局) 小泉勝彦 (国土交通省四国地方整備局)	"	"

賞の区分	受賞業績名	受賞者名	授与するもの	授与期日
【九州支部】				
支部賞 技術賞 (団体)	超軟弱粘土の処分場を北九州空港用地へと変える地盤解析手法	国土交通省九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所 国土交通省九州地方整備局下関港湾空港技術調査事務所 (財)沿岸技術研究センター (株)日建設計シビル	賞状、記念品	23.4.26
支部学生賞 (優良学生賞)	水分拡散係数の算出に関する実験的考察	村山啓太(九州大学工学部地球環境工学科)	"	"
	GISを用いた不連続変形法による3次元落石解析	鄭路(九州大学大学院工学府建設システム工学専攻)	"	"
	オフロード車両による構造・粘着力を有する土壌の踏圧現象に関する研究	宮寄朋浩(九州大学大学院生物資源環境科学府)	"	"
	造粒した汚泥の強度特性に関する基礎的研究	高橋里世(九州工業大学工学部建設社会工学科)	"	"
	再生半水石膏を用いた地盤改良効果と環境安全性に関する研究	吉田英史(福岡大学大学院工学研究科建設工学専攻)	"	"
	バイオマスを混合した火山灰質粘性土の地盤材料としての有効利用	東康平(九州産業大学大学院工学研究科土木工学専攻)	"	"
	各種添加物を利用した低強度ジオポリマーの強度発現の試みについて	森山尚純(佐賀大学大学院農学研究科生物生産学専攻)	"	"
	塩濃度分布から佐賀平野粘土地盤堆積環境変化に関する研究	杉田公和(佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻)	"	"
	石炭灰・セメントの有効利用におけるMgOを用いたCr(VI)の溶出抑制効果に関する研究	下田聡(佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻)	"	"
	廃石膏ボード粉から再生された石膏の基本的性状と密度を用いた品質管理法について	首藤英利(大分工業高等専門学校都市システム工学科)	"	"
	集中豪雨による斜面崩壊メカニズムの解明に関する基礎研究	田中利典(長崎大学大学院生産科学研究科環境システム工学専攻)	"	"
	X線CTを用いた斜杭の水平支持力特性に関する研究	熊谷信二郎(熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻)	"	"
	砂およびタイヤチップの一面せん断挙動の解明に関する研究	堤洋平(熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻)	"	"
	茎熱収支法による茎内流量測定に関する基礎的研究	坂口朋軌(鹿児島大学大学院農学研究科生産環境学専攻)	"	"

. 処務の概要

1. 役員・職員に関する事項

(1) 役員

(平成22年度末現在)

役名	氏名	就任年月日	担任職務	手当	現職	備考
会長	日下部 治	23.1.14	業務の総括	無	東京工業大学大学院理工学研究科	*6.5.26
副会長	高橋 邦夫	"	会長の補佐 基準の総括	"	基礎地盤コンサルタンツ(株)	*13.5.30
	村上 章	"	会長の補佐 総務	"	京都大学大学院農学研究科	*15.5.29
	岸田 隆夫	"	会長の補佐 総務 会員・支部の総括	"	東亜建設工業(株)土木事業本部	*10.5.29
理事	風間 基樹	"	総務の総括	"	東北大学大学院工学研究科	*20.5.29
	奥野 哲夫	"	総務	"	清水建設(株)技術研究所 社会基盤技術センター	*21.5.28
	木村 亮	"	総務	"	京都大学大学院工学研究科	*22.5.27
	西江 俊作	"	経理	"	中央開発(株)技術センター	*22.5.27
	谷 和夫	"	企画の総括	"	横浜国立大学大学院工学研究院	*21.5.28
	峯田 一彦	"	企画	"	(株)ドーコン環境事業本部地質部	*22.5.27
	須賀 幸一	"	会員・支部	"	(株)芙蓉コンサルタント技術本部	*22.5.27
	渡部 要一	"	国際の総括	"	(独)港湾空港技術研究所地盤・構造部	*22.5.27
	三村 衛	"	会誌の総括	"	京都大学防災研究所	*21.5.28
	兵動 正幸	"	会誌	"	山口大学大学院理工学研究科	*22.5.27
	村田 芳信	"	事業の総括	"	NPO法人地盤防災ネットワーク	*22.5.27
	李 圭太	"	事業	"	(株)建設技術研究所大阪本社	*21.5.28
	大塚 悟	"	調査・研究の総括	"	長岡技術科学大学工学部	*21.5.28
	中井 正一	"	調査・研究	"	千葉大学工学部	*21.5.28
	安福 規之	"	基準	"	九州大学大学院工学研究院	*22.5.27
監事	谷 茂	"	監事	"	NTCインターナショナル(株)技術本部	*21.5.28
	石川 彰	"	監事	"	興亜開発(株)	*22.5.27

*最初の就任年月日

役名	氏名	就任年月日	担任職務	手当	現職	備考
【北海道支部】						
支部長	徳長 政光	22.11.1	支部業務の総括	無	北海道建設部	
副支部長	峯田 一彦	"	支部長の補佐	"	(株)ドーコン	
"	田中 洋行	"	"	"	北海道大学大学院工学研究院	
幹事長	川村 志麻	"	支部事務の総括	"	室蘭工業大学大学院工学研究科	
支部監事	澤向 修	"	監査	"	東亜建設工業(株)	
"	折笠 章	"	"	"	北海道士質試験協同組合	

役名	氏名	就任年月日	担任職務	手当	現職	備考
----	----	-------	------	----	----	----

【東北支部】

支部長	飛田 善雄	22.11.18	支部業務の総括	無	東北学院大学工学部	
副支部長	赤沼 聖吾	"	支部長の補佐	"	鹿島建設(株)東北支店	
"	堀畑 正純	"	"	"	農林水産省東北農政局	
幹事長	仙頭 紀明	"	支部事務の総括	"	日本大学工学部	
副幹事長	高橋 一雄	"	幹事長の補佐	"	(株)テクノ長谷	
支部監事	鈴木 政好	"	監査	"	(株)大林組東北支店	
"	早坂 功	"	"	"	(株)テクノ長谷	

【北陸支部】

支部長	大川 秀雄	22.11.11	支部業務の総括	無	新潟大学	
支部長補佐	川村 國夫	"	支部長の補佐	"	金沢工業大学	
副支部長	松本 樹典	"	"	"	金沢大学理工研究域	
"	門木 秀一	"	"	"	北陸電力(株)	
"	大塚 悟	"	"	"	長岡技術科学大学	
支部監事	伊藤 清春	"	監査	"	中部地質(株)	
"	高取 博道	"	"	"	(株)福田組	
幹事長	豊田 浩史	"	支部事務の総括	"	長岡技術科学大学	
副幹事長	筒井 弘之	"	幹事長の補佐	"	中部地質(株)	
"	桜井 幹郎	"	"	"	北陸基礎開発(株)	

【関東支部】

支部長	太田 秀樹	22.11.19	支部業務の総括	無	中央大学研究開発機構	
副支部長	田矢 盛之	"	支部長の補佐	"	関東地質調査業協会	
"	小椋 仁志	"	"	"	ジャパンパイル(株)	
"	赤木 寛一	"	"	"	早稲田大学	
"	金尾 健司	"	"	"	国土交通省関東地方整備局	
"	東畑 郁生	"	"	"	東京大学	
幹事長	菊池 喜昭	"	支部事務の総括	"	(独)港湾空港技術研究所	
副幹事長	佐藤 謙司	"	幹事長の補佐	"	応用地質(株)	
"	高橋 章浩	"	"	"	東京工業大学	
支部監事	瀬古 一郎	"	監査	"	中央開発(株)	
"	岸田 隆夫	"	"	"	東亜建設工業(株)	

【中部支部】

支部長	岩立 忠夫	22.11.15	支部業務の総括	無	国土交通省中部地方整備局	
副支部長	大東 憲二	"	支部長の補佐	"	大同大学	
"	坪田 邦治	"	"	"	中部土質試験協同組合	
幹事長	渡邊 和重	"	支部事務の総括	"	国土交通省中部地方整備局	
支部監事	能島 暢呂	"	監査	"	岐阜大学	
"	小高 猛司	"	"	"	名城大学	

役名	氏名	就任年月日	担任職務	手当	現職	備考
----	----	-------	------	----	----	----

【関西支部】

支部長	霜上 民生	22.11.15	支部業務の総括	無	(社)近畿建設協会	
副支部長	常田 賢一	"	支部長の補佐	"	大阪大学大学院	
"	松田 好史	"	"	"	西日本旅客鉄道(株)	
"	玉田 尋三	"	"	"	兵庫県	
幹事長	澁谷 啓	"	支部事務の総括	"	神戸大学大学院	
支部監事	中山 義昭	"	監査	"	(株)大林組	
"	荒木 繁幸	"	"	"	(株)ダイヤコンサルタント	

【中国支部】

支部長	早川 和利	22.11.16	支部業務の総括	無	西日本高速道路(株)中国支社	
副支部長	高垣 広徳	"	支部長の補佐	"	広島県土木局	
"	兵動 正幸	"	"	"	山口大学大学院理工学研究科	
"	増本 清	"	"	"	島根大学総合理工学部	
幹事長	徳丸 昌敬	"	支部事務の総括	"	西日本高速道路(株)中国支社	
支部監事	福成 孝三	"	監査	"	復建調査設計(株)	
"	長富 理	"	"	"	五洋建設(株)中国支店	

【四国支部】

支部長	矢田部龍一	22.11.15	支部業務の総括	無	愛媛大学大学院理工学研究科	
副支部長	別枝 修	"	支部長の補佐	"	四国電力(株)	
"	石橋 良啓	"	"	"	国土交通省四国地方整備局	
"	岡田 進	"	"	"	大成建設(株)四国支店	
幹事長	岡村 未対	"	支部事務の総括	"	愛媛大学大学院理工学研究科	
支部監事	岡田 章二	"	監査	"	ニタコンサルタント(株)	
"	有田 芳弘	"	"	"	応用地質(株)四国支社	

【九州支部】

支部長	岩崎 憲彰	22.11.16	支部業務の総括	無	福岡市道路下水道局	
副支部長	大坪 政美	"	支部長の補佐	"	九州大学大学院農学研究院	
"	増永 修平	"	"	"	日本土木工業協会九州支部	
"	福田 久弥	"	"	"	福岡県地質調査業協会	
幹事長	中野 計雄	"	支部事務の総括	"	福岡市道路下水道局	
副幹事長	清水 亨	"	幹事長の補佐	"	国土交通省九州地方整備局	
支部監事	高田 誠	"	監査	"	中央開発(株)九州支社	
"	永嶋 洋政	"	"	"	日本地研(株)	

(2) 職員

【本部関係】

(平成22年度末現在)

職 務	氏 名	就任年月日	担 任 事 務	手当	備考
事務局長	戸塚 弘	19.12.1	事務の総括	有	
次長兼総務・経理課長	浅野 有三	21.6.1	局長の補佐 総務・経理総括	〃	H23.3.31退職
一般事業課長	鈴木 徳和	19.12.1	一般事業総括	〃	
刊行事業課長	下山 礼子	19.12.1	講習会・出版総括	〃	H23.3.31退職
総務・経理課長代理	松本 雅樹	19.12.1	総務・経理	〃	
一般事業課長代理	伊佐治 敬	19.12.1	調査・研究、基準	〃	
職員(総務・経理課)	坪井 美咲	22.1.1	総務・経理	〃	
〃(刊行事業課)	永田 満枝	22.1.1	講習会・出版	〃	
〃(総務・経理課)	内藤 千愛	19.12.1	総務・経理	〃	
〃(一般事業課)	古藤田 純	22.1.1	会誌編集、国際	〃	H23.3.31退職
〃(一般事業課)	地主 祐子	21.9.1	調査・研究、基準	〃	
〃(総務・経理課)	新田三恵子	23.2.1	総務・経理	〃	
〃(刊行事業課)	廣松さおり	23.2.1	講習会・出版	〃	
〃(一般事業課)	小澤のぞみ	23.2.1	会誌編集、国際	〃	

【支部関係】

(平成22年度末現在)

職 務	氏 名	就任年月日	担 任 事 務	手当	備考
【北海道支部】 事務局長	松尾 政宏	21.4.1	統括	有	(社)土木学会 北海道支部、 北海道土木 技術会兼務
【北海道支部】 職員	林 美和子	3.8.9	事務全般	有	(社)土木学会 北海道支部、 北海道土木 技術会兼務
【東北支部】 職員	須藤 良清	17.5.1	事務全般	有	(社)土木学会 東北支部所属 (業務委託)
【北陸支部】 職員	廣川 光代	21.4.1	事務全般	有	(社)日本技術士 会北陸支部兼務 (業務委託)
【関東支部】 職員	青木美智子	21.6.1	事務全般	有	
【中部支部】 職員	鶴飼 峰子	13.10.1	事務全般	有	(社)土木学会 中部支部所属 (業務委託)
【関西支部】 職員	高見 享子	16.2.1	事務全般	有	
【九州支部】 職員	小川比早子	20.4.1	事務全般	有	

2. 役員会に関する事項

(1) 総会

1) 学会総会(平成22年度臨時総会)

開催期日・開催場所	議事事項	会議の結果
23.1.14 本会会議室 出席者：103名 (書面表決提出者91名を含む)	【審議事項】 1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告 2. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る決算報告 【報告事項】 ・公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画 ・公益社団法人としての最初の事業年度に係る正味財産増減予算 ・公益社団法人としての最初の役員構成	承認可決 " 報告 " "

2) 支部(臨時)総会

支部	開催期日・開催場所	議事事項	会議の結果
北海道	22.11.30 ホテルモントレ札幌	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての最初の支部役員構成 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算	承認可決 " "
東北	22.11.18 エル・ソーラ仙台	1. 平成22年度事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 平成22年度支部役員改選 3. 平成22年度事業計画および予算	承認可決 " "
北陸	22.11.11 技術士センタービル	1. 平成22年度事業報告、会計報告および監査報告 2. 平成23年度事業計画および予算報告 3. 平成23年度役員改選	承認可決 " "
関東	22.11.19 JGS会館	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告 2. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る決算報告および会計監査報告 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画 4. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る収支予算 5. 公益社団法人としての最初の支部役員構成	承認可決 " " " "
中部	22.11.15 名古屋大学野依記念 学術交流館	1. 社団法人としての平成22年度事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 支部規程変更 3. 公益社団法人としての平成22年度支部役員	承認可決 " "
関西	22.11.15 建設交流館	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告 2. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る決算報告および会計監査報告 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画 4. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る収支予算 5. 公益社団法人としての最初の支部役員構成	承認可決 " " " "
中国	22.11.16 広島YMCAホール	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算 3. 公益社団法人としての最初の役員構成	承認可決 " "
四国	22.11.15 高松テルサ	1. 平成22年度社団法人としての最終事業年度に係る事業報告、収支決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての平成22年度支部役員 3. 公益社団法人としての平成22年度事業計画および予算	承認可決 " "
九州	23.11.16 (株)建設技術研究所 九州支社	1. 社団法人としての最終事業年度に係る事業報告、決算報告および監査報告 2. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る支部役員	承認可決 " "

(2) 理事会

開催期日	主な議事事項	会議の結果
22.11.26	1. 本部支部懇談会議題の確認 2. 第2回地盤環境日米ワークショップ開催について(2011.10) 3. 特例民法法人(22/4/1-10/31)としての本部事業報告「まえぶん」案・「本文」案・決算案および公益社団法人(22/11/1-23/3/31)としての本部事業計画「まえぶん」案・「本文」案・予算案 3. 平成23年度事業方針・計画案 4. 平成23年度第一次予算案 5. 平成23年度副会長一次候補者案 6. 移行登記完了届出報告(主たる事務所)と従たる事務所としての支部登記の件 7. 通常総会開催日5/30の日程変更の件(新定款:事業年度終了後75日以内) 8. 公益法人移行に伴う細則等の変更 9. 寄附の受け入れ案内、寄附申込書案(HPへの掲載) 10. 学会関係者に対する慶弔その他取扱内規の変更 11. 表彰規程の変更	承認可決 " " " " " 承認可決 一部継続審議 承認可決 " " "
22.12.21	1. 本部支部懇談会(H22.11.26)議事録(案) 2. 平成22年度(22.4.1~22.10.31)社団法人としての事業報告・決算 3. 平成22年度(22.11.1~23.3.31)公益社団法人としての事業計画案・予算案 4. 平成23年度第二次予算案 5. 平成23年度理事会体制の件 6. 「従たる事務所」としての支部(関東・関西)登記における設置日の件 7. 臨時総会式次第および進行スケジュール 8. 公益社団法人移行記念講演会の開催計画 9. 2月運営連絡会議開催日の変更	承認可決 " " " " " " " "
23.1.28	1. 支部交付金の規則、規程の変更案 2. 調査・研究部所管の平成23年度新設委員会の趣旨および委員長候補 3. 日本工業規格(JIS)の改正 4. 2009中長期ビジョンのアクションプランの再検討 5. 国際地盤工学会第15回アジア地域会議開催地について 6. Young Asian Geotechnical Conference開催の立候補 7. 平成23年度第三次予算案 8. 平成23年度役員構成案 9. 第53回通常総会告案	承認可決 " " " " " " 承認可決 一部継続審議 " 承認可決
23.2.24	1. SOILS AND FOUNDATIONS のオンラインジャーナル化について 2. 書籍の初版部数推定式(案) 3. 出版計画書:地盤工学・実務シリーズ33「地盤改良の調査・設計から施工まで(仮称)」 4. オンデマンド講習会運営方法内規(案) 5. 平成23年度理事会構成案 6. 「理事会等運営規程」変更案 7. 平成22年度決算見込み 8. 平成23年度事業計画「まえぶん」及び本文(本部関係) 9. 東北支部 支部規程の変更 10. ニュージーランド地震(2011年2月22日)の災害調査の対応	承認可決 " " " " " " " " 承認可決 一部継続審議 承認可決 "
23.3.18 (書面会議)	1. 「東北地方太平洋沖地震等」対応方針案 2. 「ダイバーシティ促進のための会費減免」に関する規則の変更の提案 3. 会員・支部部関連規程類の変更	承認可決 " "

開催期日	主な議事事項	会議の結果
23.3.18	4. Asian Young Geotechnical Conference の日本開催での支部への打診	〃
(書面会議)	5. 平成23年度最終予算案(本部・支部)	〃
	6. 平成23年度事業計画まえばん及び本文(本部関係+支部関係)	〃
	7. 平成22年度地盤工学会賞受賞候補者ならびに受賞候補業績、名誉会員の推挙候補者、地盤工学貢献賞受賞候補者	〃
	8. 地盤工学会表彰規程の変更	〃
	9. 平成23年度地盤工学会賞候補募集要項	〃
	10. 東北地方太平洋沖地震災害関連情報ホームページの立上げについて	〃
	11. 公益社団法人としての業務監査の基本方針について	〃

(議事中、入会者の承認(毎月)は省略)

(3) 支部評議員会

支部	開催期日	主な議事事項	会議の結果
北海道	22.11.17 メール審議	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての最初の支部役員構成 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算	承認可決 〃 〃
	23.2.23	1. 平成23年度事業計画および予算	〃
東北	23.2.23	1. 平成22年度(H22.11.1~23.3.31)事業報告、収支決算報告および会計監査報告 2. 平成23年事業計画(案)および正味財産増減予算(案) 3. 平成23年度役員改選(案)	承認可決 〃 〃
北陸	23.3.3	1. 平成22年度事業報告、会計報告および会計監査報告(案) 2. 平成23年度事業計画(案)および予算(案)	承認可決 〃
関東	22.11.19	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告 2. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る決算報告および会計監査報告 3. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画 4. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る収支予算 5. 公益社団法人としての最初の支部役員構成	承認可決 〃 〃 〃 〃
	23.2.21	1. 平成22年度(平成22年11月~平成23年3月)事業経過報告および決算見込み 2. 平成23年度事業計画(案)および予算(案) 3. 平成23年度支部役員名簿(案)	承認可決 〃 〃
中部	22.11.15	1. 社団法人としての平成22年度事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 支部規程変更 3. 公益社団法人としての平成22年度事業計画および予算 4. 公益社団法人としての平成22年度支部役員	承認可決 〃 〃 〃
	23.2.16	1. 平成22年度運営委員会・幹事会・評議員会開催報告 2. 平成22年度事業報告、決算見込 3. 謝金支給要領の改正 4. 平成23年度支部事務局、副支部長(案) 5. 平成23年度事業計画(案)	承認可決 〃 〃 〃 〃
関西	22.11.15	1. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る事業報告 2. 社団法人(特例民法法人)としての最終事業年度に係る決算報告 3. 地盤工学会の公益法人化について 4. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画 5. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る収支予算 6. 公益社団法人としての最初の支部役員構成	承認可決 〃 〃 〃 〃 〃

支部	開催期日	主な議事事項	会議の結果
中国	22.11.16	1. 社団法人（特例民法法人）としての最終事業年度に係る事業報告、決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算 3. 公益社団法人としての最初の役員構成	承認可決 " "
	23.2.16	1. 平成22年度事業報告および決算見込について 2. 地盤工学会誌中国支部特集号編集WG進捗状況について 3. 防府地区土砂災害調査研究委員会活動状況について 4. 地盤情報データベース委員会の進め方について 5. 平成23年度事業計画案および予算案について 6. 平成23年度役員案および事務局案について	承認可決 " " " " "
四国	22.11.15	1. 平成22年度社団法人としての最終事業年度に係る事業報告、収支決算報告および会計監査報告 2. 公益社団法人としての平成22年度支部役員 3. 公益社団法人としての平成22年度事業計画および予算	承認可決 " "
	23.2.8	1. 平成22年度事業報告、会計報告および会計監査報告（案） 2. 平成23年度事業計画（案）および予算（案）	承認可決 "
九州	22.11.16	1. 本部理事会報告事項 2. 社団法人としての最終事業年度に係る事業報告および委員会活動報告 3. 社団法人としての最終事業年度に係る決算報告 4. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る事業計画および予算 5. 公益社団法人としての最初の事業年度に係る支部役員構成 6. 九州支部規定の改正（事務職員の給与規定について） 7. その他 ・「九州建設フォーラム2010について」	承認可決 " " " " " "
	23.3.4	1. 本部理事会報告事項 2. 平成22年度事業および委員会活動報告 3. 平成22年度収支決算見込みについて 4. 平成23年度事業計画（案）および収支予算（案）について 5. 平成23年度役員名簿（案）について 6. その他 ・アジア会議について ・九州地盤情報データベースについて	承認可決 " " " " "

3. 運営関係委員会等に関する事項

担当部	部会、委員会等の名称	部長、委員長等	委員数	開催回数	備考
【総務部】	正副会長会議	日下部 治	5	5	
	運営連絡会議	日下部 治	13	0	
	表彰委員会	風間 基樹	20	5	幹事会3回を含む
	選挙管理委員会	岸田 隆夫	11	0	
	災害連絡会議	村上 章	75	0	メール会議：随時開催
	総務部会	風間 基樹	9	5	メール会議1回を含む
	広報委員会	奥野 哲夫	15	2	
【企画部】	企画部会	谷 和夫	8	3	
【会員・支部部】	会員・支部部会	岸田 隆夫	11	3	
	本部支部懇談会	日下部 治	30	1	
	本部支部連絡協議会	日下部 治	59	0	前回出席者数
	本部支部活動活性化委員会	中村 晋	-	0	
	継続教育システム委員会	笹倉 剛	10	3	
	産官学連携支援委員会	山崎 剛	8	0	
	男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会 会員データベース管理システム改善WG	桑野 玲子 渦岡 良介	7 6	2 2	メール会議：随時
【国際部】	国際部会	渡部 要一	9	2	メール会議：随時開催
	国際委員会	日下部 治	8	2	
	IS-Hokkaido 2012 実行委員会	三浦 清一	24	2	
	IS-Kanazawa 2012 組織委員会	松本 樹典	33	2	
【会誌部】	会誌部会	三村 衛	10	1	メール会議：随時開催
	「地盤工学会誌」編集委員会	三村 衛	51	3	運営・グループ委員会を含む
	講座小委員会	張 鋒	19	1	執筆者会議を含む
	「地盤工学会論文報告集」編集委員会	澁谷 啓	29	3	
	「地盤工学ジャーナル」編集委員会	小高 猛司	17	0	メール会議：随時開催
【事業部】	事業部会	村田 芳信	9	3	
	出版企画委員会	李 圭太	15	2	
	技術普及委員会	村田 芳信	14	3	
	販売促進・企画WG	村田 芳信	5	1	メール審議
	土の締固め編集委員会	建山 和由	10	0	
	近接施工法編集委員会	赤木 寛一	16	1	
	シールド工法編集委員会	小泉 淳	9	0	
	山留めにおける創意・工夫編集委員会	宮崎 祐助	10	2	
	地盤工学における性能設計入門編集委員会 都市の地盤編集委員会	小林 俊一 安田 進	9 21	0 3	支部委員9を含む
【調査・研究部】	調査・研究部会	大塚 悟	24	3	
	研究統括委員会	川名 太	6	1	
	行事委員会	田中 俊行	11	3	WG開催
	学術情報委員会	井上 波彦	5	0	
	地盤環境企画委員会	小峯 秀雄	6	0	
	地震災害企画委員会	金谷 守	8	0	
	斜面災害企画委員会	沖村 孝	7	0	
	第45回地盤工学研究発表会実行委員会	矢田部龍一	50	0	

担当部	部会、委員会等の名称	部長、委員長等	委員数	開催回数	備考
【調査・研究部】	第46回地盤工学研究発表会実行委員会	岡 二三生	84	2	
	岩盤工学企画委員会	芥川 真一	9	1	
	ジオシンセティックス工学委員会	三木 博史	5	0	
【基準部】	基準部会	高橋 邦夫	12	2	
【北海道支部】	幹事会	川村 志麻	31	1	他に各担当幹事会3回
【東北支部】	幹事会	飛田 善雄	45	2	常任幹事会を含む
	支部表彰委員会	飛田 善雄	16	1	
【北陸支部】	新潟地区幹事会	豊田 浩史	10	1	
	富山地区幹事会	桜井 幹郎	10	1	
	石川地区幹事会	筒井 弘之	8	1	
	支部表彰委員会	川村 國夫	6	1	
	支部活性化委員会	岩田 英二	5	1	
	NIT地盤情報活用委員会	鴨井 幸彦	7	1	
	IS-Kanazawa支部準備委員会	松本 樹典			
若手委員会	佐藤 豊	30	1		
【関東支部】	運営委員会	太田 秀樹	28	3	他に各担当幹事会を適宜実施
【中部支部】	幹事会	渡邊 和重	47	3	幹事会と合同開催 世話役：持ち回り
	企画委員会	中野 正樹	7	2	
	運営委員会	小高 猛司	11	2	
	代議員会			1	
	第1部会(地盤工学に関するセミナー)	小高 猛司	35	1	
	第2部会(中部地盤研究会)	板橋 一雄	35	1	
	第3部会(中部総合地震防災システム研究委員会)	能島 暢呂	27	2	
	第4部会(調査・設計・施工技術報告会運営委員会)	前田 健一	29	2	
	第5部会(中部地盤工学シンポジウム運営委員会)	野田 利弘	15	1	
第6部会(見学会運営委員会)	柴田 昌弘	10	1		
第7部会(信州地盤環境委員会)	古本 吉倫	15	1		
第8部会(若手技術者の会)	中井健太郎	23	1		
【関西支部】	顧問会	霜上 民生	26	1	
	幹事会	澁谷 啓	47	3	
	合同委員会	霜上 民生	19	1	
【中国支部】	幹事会	徳丸 昌敬	20	5	メール会議含む
	表彰委員会	増本 清	15	3	メール会議
	「地盤と建設」編集委員会	兵動 正幸	8	3	メール会議
	国際委員会	清水 正喜	10	1	
【四国支部】	幹事会	岡村 未対	16	2	メール審議
	表彰委員会	矢田部龍一	4	1	
	第45回地盤工学研究発表会部会長会議(報告事項)	矢田部龍一	26	1	
【九州支部】	顧問会	落合 英俊	4	1	他に各担当委員会、幹事会6回
	全体幹事会	中野 計雄	57	0	
	国際委員会	大谷 順	24	3	
	中長期ビジョン検討委員会	佐藤 研一	6	5	
	表彰委員会(団体の部)	大坪 政美	6	2	
	表彰委員会(学生賞の部)	大坪 政美	2	2	
計 87 件			1,572	140	

4. 関連団体との連携および協力

(1) 承認した共催、協賛、後援行事等

共催等	開催月日	行事名	開催地	主催関連団体等
共催	22.12.2	建設技術者の継続教育を考えるシンポジウム2010	都内	建設系CPD協議会
	22.12.7	平成22年度オープンセミナー「次世代衛星測位システムと防災」	都内	shamen-net研究会
	23.1.22	第2回科学技術人材育成シンポジウム	都内	(社)日本工学会、日本学会会議
	23.10.12-14	第7回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム	都内	日本学会会議
	23.3.10	第5回シンポジウム：統合化地下構造データベースの構築	都内	(独)防災科学技術研究所
	23.6.16-17	第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会	都内	公益社団法人地盤工学会ほか4団体
	23.7.14-15	法地盤工学国際シンポジウム：地盤工学における逆問題と地盤工事の失敗と観測施工 - 地盤工事の施工管理の国際規格化にむけて -	大阪市	国際地盤工学会 法地盤工学技術委員会 (TC302)
協賛	23.11.20-23	第10回SEGJ国際シンポジウム Imaging and Interpretation	京都市	(社)物理探査学会
	23.2.3-4	HPI技術セミナー「第11回エネルギー貯槽等技術基準と安全性」	都内	日本高圧力技術協会
	23.5.25-5.27	第16回計算工学講演会	柏市	一般社団法人日本計算工学会
	23.6.29-7.1	第21回環境工学総合シンポジウム2011	仙台市	(社)日本機械学会
後援	23.1.18	砂防学会特別シンポジウム：深層崩壊を考える	都内	(社)砂防学会
	23.10.27-29	第5回環境振動国際シンポジウム (5th International Symposium on Environmental Vibration)	中国四川省	中国西南交通大学
	23.2.25 ほか6回	小規模建築物基礎設計例集講習会	都内ほか6か所	(社)日本建築学会
	23.2.3-4	第15回震災対策技術展	横浜市	「震災対策技術展」実行委員会
	23.2.4	ワンデーセミナー「物理探査と岩石物性」	都内	(社)物理探査学会
	23.2.4	第1回震災予防講演会	横浜市	一般社団法人日本地震工学会
	23.3.22	シンポジウム「自然災害軽減のための国際協力のあり方を考える」	都内	日本学会会議
	23.3.8	第15回土木鋼構造研究シンポジウム	都内	(社)日本鉄鋼連盟
	23.4.22	自然災害フォーラム 九大2011	福岡市	九州大学西部地区自然災害資料センター
	23.6.23	第11回GSCシンポジウム	都内	GSCネットワーク
24.3.12-13	耐震実験・解析の高度化に関する国際ワークショップ (ASEC2012)	名古屋市	名城大学高度制震実験・解析研究センター	

【東北支部】

共催	22.11.1	「仮設構造物の計画と施工」に関する講習会	仙台市	(社)土木学会東北支部
後援	22.11.9	土木の日特別行事講演会「2010チリ地震津波で起きた事・学ぶ事」	仙台市	(社)土木学会東北支部
後援	23.1.13	「第2回 東北地方の橋梁保全に関するシンポジウム」	仙台市	(社)土木学会東北支部
協力	22.12.13	とうほく地盤情報システム運営協議会(設立総会)	仙台市	協議会

【北陸支部】

共催	23.2.23	斜面防災対策技術講演会「深層崩壊について考える」	富山市	斜面防災技術協会
----	---------	--------------------------	-----	----------

共催等	開催月日	行事名	開催地	主催関連団体等
【関東支部】				
共催	22.11.29	彩の国市民科学オープンフォーラム 激甚化・多様化する気象災害に備える	さいたま市	埼玉大学地圏科学研究センター
	22.12.22	技術講習会	千葉市	千葉県建設技術協会
	23.2.4	廃石膏ボードの再資源化と地盤改良への適用に関する講演会	桐生市	NPO 法人北関東産官学研究会
協賛	22.12.2	第2回メタンハイドレート総合シンポジウム	江東区	産総研メタンハイドレート研究センター
【中部支部】				
共催	22.12.3	理科特別授業（尾張旭市立旭丘小学校）	尾張旭市	中部土質試験協同組合
	22.11.19	中部ミニフォーラム2010	名古屋市	中部地質調査業協会
	22.11～23.10	三六災害50年事業	長野県伊那谷地域	三六災害50年実行委員会
【関西支部】				
後援	22.11.5	日本地すべり学会関西支部 現地討論会 花崗岩地帯の土砂災害について	山口市～防府市	日本地すべり学会関西支部
	22.11.26	地下水地盤環境に関するシンポジウム2010	大阪市	地下水地盤環境に関する研究協議会
協賛	22.11.5	創立30周年行事 人材活用フォーラム 関西の力、土木の未来	大阪市	関西地盤環境研究センター
	22.12.10 11	第5回若手シンポジウム	神戸市	日本材料学会関西支部
	23.1.11	地震防災フォーラム2010	大阪市	関西地震観測研究協議会
	23.2.5	日本技術士会近畿支部特別講演会	大阪市	日本技術士会近畿支部
【四国支部】				
共催	22.11.26	平成22年度技術講習会（地すべり地形）	高知市	四国地質調査業協会高知支部
	23.1.28	平成22年度 地すべり現地研修会	高知県	四国地質調査業協会高知支部
【九州支部】				
共催	22.11.26	土木学会西部支部「技術発表会」	福岡市	(社)土木学会西部支部
	23.1.18	セミナー「廃石膏ボードのリサイクル技術」	福岡市	NPO法人廃棄物地盤工学研究会

. 会員の異動状況

会員の異動状況書

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	平成22年度末 (平成23.3.31現在)	平成21年度末 (平成22.3.31現在)		
正 会 員	8,414 名	8,685 名	-271 名	それぞれ正会員・特別会員数に含む
学生会員	863 名	882 名	-19 名	
国際会員	1,223 会員 (正会員1,178名、特別会員45社)	1,287 会員 (正会員1,240名、特別会員47社)	-64 会員	
特別会員	935 社	976 社	-41 社	
名誉会員	125 名 (内、外国人名誉会員16名)	125 名 (内、外国人名誉会員14名)	0 名	

会 員 現 況 内 訳

区 分	平成22年度末現在数				平成21年度末現在数				対前年度増減				平成23.3.31特別会員級別内訳					
	正会員	学生会員	特別会員	名誉会員	正会員	学生会員	特別会員	名誉会員	正会員	学生会員	特別会員	名誉会員	特級	1級	2級	3級	4級	計
北海道	495	47	66	6	508	52	67	6	-13	-5	-1	0	0	2	5	4	55	66
東北	465	24	41	3	465	24	40	3	0	0	1	0	0	0	1	6	34	41
北陸	344	32	40	3	361	32	41	2	-17	0	-1	1	0	0	1	5	34	40
関東	3,576	265	317	53	3,719	287	331	55	-143	-22	-14	-2	1	17	10	31	258	317
中部	691	100	85	9	704	106	91	8	-13	-6	-6	1	0	1	0	8	76	85
関西	1,188	134	209	26	1,239	155	221	26	-51	-21	-12	0	7	11	13	28	150	209
中国	557	102	58	1	579	88	59	2	-22	14	-1	-1	0	6	8	2	42	58
四国	300	46	30	2	293	37	30	2	7	9	0	0	0	0	3	2	25	30
九州	741	113	89	6	758	100	96	6	-17	13	-7	0	0	0	5	10	74	89
海外	57	0	0	16	59	1	0	15	-2	-1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	8,414	863	935	125	8,685	882	976	125	-271	-19	-41	0	8	37	46	96	748	935
合計	10,337				10,668				-331									

年度末会員数の推移

